

沖冠
著

十八史略譯解

四

特31

732

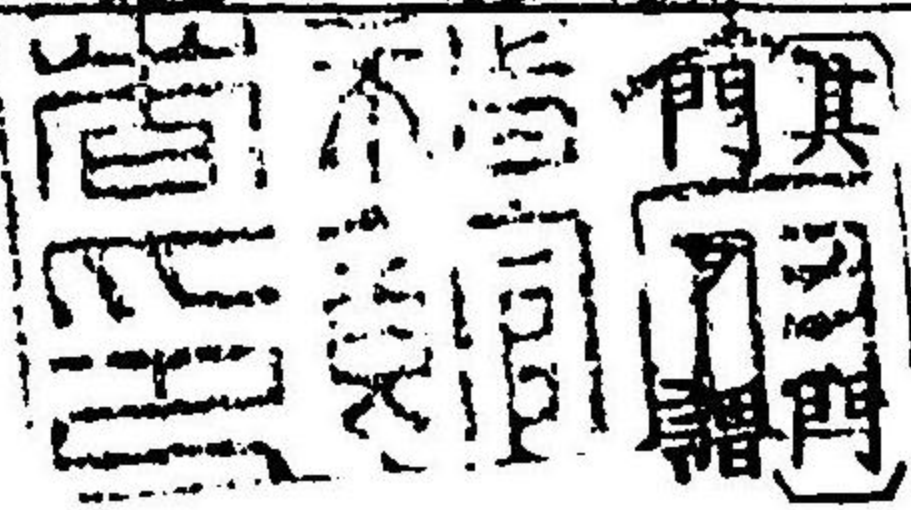
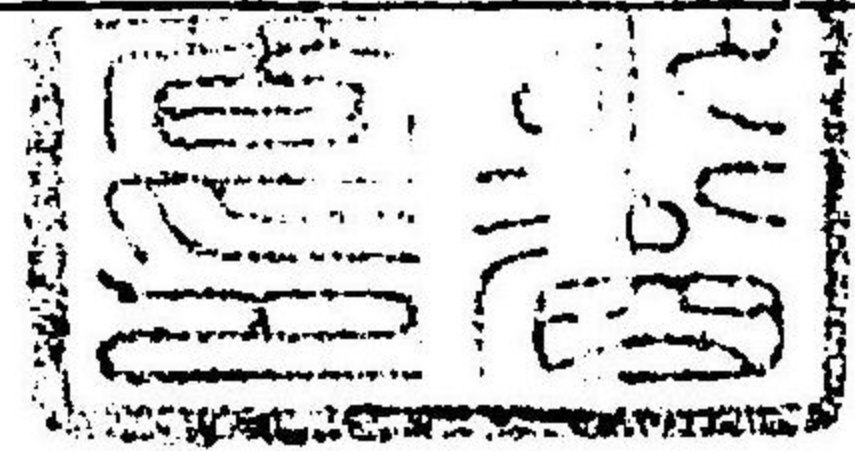
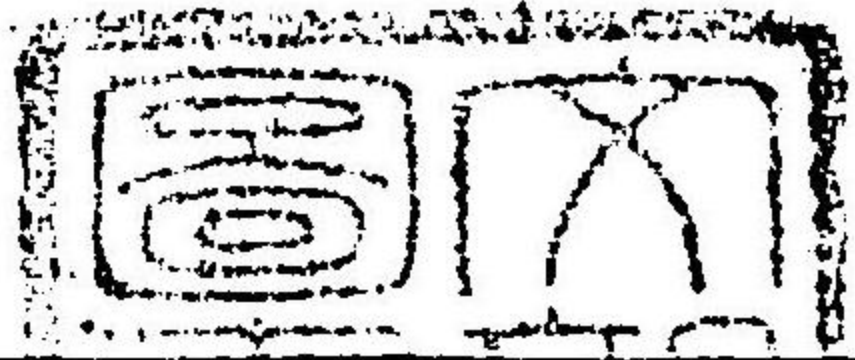
館藏書會育教本日

室 第

一	五	二
二	四	九
冊	號	架

共十二冊

特31
732



其門
フ
ナ
リ

冲冠嶺著十八史略譯解卷之四

東京 冠嶺冲正修編輯

孝昭皇帝名ハ弗陵母ハ鈎弋夫人趙氏

趙健仔鈎弋宮ニ居ル娘テ十四月ニ

ノ生ム武帝其ノ門ヲ命ケテ堯母門

ト曰フ昔堯ノ母モ亦娠テ十年七歳

ニノ體壯大多知ナリ武帝之ヲ立テ

ント欲ス群臣ヲ察ルニ惟霍光忠厚

周公成王ヲ負テ諸侯
ヲ朝セシムル圖



ニノ大事ニ任スヘシ、黄門ヲノ周公、
 成王ヲ負テ諸侯ヲ朝セシムルヲ、
 カノ、以テ霍光ニ賜フ凡ソ禁門ハ黄
門ト謂フ、宦者ハ之ヲ主トル、故鉤弋
ニ世俗、宦者ヲ黜ノ、黄門ト曰フ夫人ヲ譴責ノ死ヲ賜フテ曰ク、古ヨ
 リ國家ノ亂ル、ユヘンハ、主少ク母
 壯ニノ驕淫自恣ナルニ由ルナリト、
 明年、武帝崩ス、遂ニ位ニ即ク、燕王且
 武帝ノ長ニノ立ヲ得サルヲ以テ、反
 弟三子ノ長ニノ立ヲ得サルヲ以テ、反
 ヲ謀ル、赦ノ治セス、黨與、誅ニ伏ス○
 始元六年、燕武匈奴ヨリ還ル、武、初メ

去摘ナリ、一説
 去ハ之ヲ藏
 △ルヲ謂フ

北海ノ上ニ徙ル、野鼠ヲ掘リ、草實ヲ
 去テ之ヲ食フ、卧起ニ漢節ヲ持ス、李
 陵、武ニ謂テ曰ク、人生ハ朝露ノ如シ、
 何ソ自ラ苦ム、此ノ如クナルト、陵、衛
 律ト匈奴ニ降ル、皆ナ富貴ナリ、律モ
 亦屢武ニ降ルヲ勸レ、終ニ肯セス、
 漢ノ使、匈奴ニ至ル、匈奴詭テ言フ、武
 已テニ死スト、漢使之ヲ知リ言フ、天
 子上林ノ中ニ射ソ、鴈ヲ得タリ、足ニ
 彫書アリ、云ク、武、大澤中ニ在リト、匈
 奴、隠ス能ハス、乃チ武ヲソ還ラシム

武、匈奴ニ留マラル十九年、始ノ强壮ヲ
 以テ出ツ、還ニ及ンテ鬚髮盡ク白シ、
 拜ノ典屬國ト為ス典屬國、蠻夷ノ國ト主トスル○
 左將軍上官桀カ子ノ安、霍光カ婚ト
 為リ、女ヲ生ム上官ハ姓桀ハ名ナリ立テ皇后
 ト為ル、桀安ト自ラ后ノ祖父ヲ以テ、
 乃チ光カ外祖ヲ以テ、朝事ヲ專制ス
 ルニ若ハス、桀光ト權ヲ争フ、時ニ鄂
 郎鄂郎、武帝ノ姊、公主、蓋
 侯侯ノ妻ナリ、泰山愛スル所ノ丁外人
 郡ニ蓋縣アリ
 カ為メニ封侯ヲ求ム丁外人ハ名ナリ

都建都ハ、試ナ
 リ、肆ハ、習ナリ、
 武備ヲ總閱試
 習スルナリ

許サス、光ヲ怨ム、燕王且自ラ帝ノ兄
 ナルヲ以テ、常ニ怨望ス、御史大夫桑
 弼羊、子弟ノ為メニ官ヲ求ム、得ス、亦
 怨望ス、是ニ於テ、皆ナ且ト謀ヲ通シ、
 詐テ人ヲメ且カ為メニ上書セシム、
 言ク、光出テ、郎羽林ヲ都肆シ、道上
 ニ蹕ヲ稱シ、擅ニ幕府ノ校尉ヲ調益
 シ、權ヲ專ハラニシ、自ラ恣ニス、疑ラ
 クハ非常アラント、光カ出沐ノ日ヲ
 候テ、之ヲ奏ス羽林宿衛ノ官、疾キ羽
 ナリ、言ハ光ノ出ル、本ト軍士ヲ闕視
 スル為メニ、道上ニ於テ、僭ノ天子

其ノ事ヲ下ス
下ハ公卿其ノ
事ヲ講議ス後
此ニ倣ヘ
畫室彩畫ノ室
畫室ハ漢ノ大
臣罪ヲ行フ大
所ト

警蹕ノ制ヲ用ユルナリ、一説ニ羽林
ハ親軍ノ官〔幕府校尉〕幕府ハ帥府ナ
リ、武帝嘗テ衛青ヲノ匈奴ヲ伐クニ
ハ、大ニ克ツ、即日ニ大將軍ヲ幕中ニ
拜ス、故ニ幕府ト曰フ、言ハ光、自ラ
ニ調遷ノ、幕府校尉ノ官ヲ増益スル
ナリ、祭中ヨリ其事ヲ下サント欲ス、弘
羊、當サニ大臣ト共ニ執テ、光ヲ退ク
ヘシト、書奏ス、帝肯テ下サス、明且ニ
光、之ヲ聞テ、畫室ノ中ニ止テ、入ラス、
上問フ、大將軍安ニカ在ル、祭カ曰ク、
燕王其ノ罪ヲ告ルヲ以テ、敢テ入ラ
スト、詔ノ大將軍ヲ召ス、光入ル、冠ヲ
免ノ、頓首ノ謝ス、上ノ曰ク、將軍、廣明

校尉ヲ須ヒシ
言ハ、如シ光、校
尉ヲ調益スル
ヲ以テ非ト為
サハ、則チ必シ
モ調益セサル
ヘシ、遂ニ足ラ
ス、遂ハ猶ヲ
ノコトキナリ、
須ク究競セス

屬付託ナリ、

ニテ郎ヲ都ムル近ノミ〔廣明〕校尉
ヲ諫ノヨリ以來、未タ十日ナル能ハ
ス、燕王、何ヲ以テカ之ヲ知ルヲ得、
且ツ將軍非ヲ為サハ、校尉ヲ須ヒシ
ト、是ノ時元鳳元年、帝、年十四ナリ、尚
書左右皆ナ驚ク、〔尚書〕官、王命ヲ出納
ヲ掌而ノ上書セシ者、果ノ亡ク、之ヲ
捕フ甚タ急ナリ、祭等懼テ上ニ白ス、
小事ナリ、遂ニ足ラスト、上聽カス、後
ニ祭カ黨光ヲ譖ル者アリ、上輒チ怒
テ曰ク、大將軍ハ忠臣、先帝ノ屬、以

以聞奏ナリ

テ朕カ身ヲ輔クル所ナリ、敢テ毀ル者アレハ、之ヲ坐セシト、是ヨリ敢テ復ク言フ者ナシ、桀等謀テ、長公主ヲ置酒ノ光ヲ請ハシメ、兵ヲ伏セテ之ヲ格殺シ、曰テ帝ヲ廢メ、且ヲ立テントス、安又謀ル、誘テ且ヲ徵シ、至ラハ之ヲ誅シ、帝ヲ廢メ桀ヲ立テント、會其ノ謀ヲ知ル者アリ、以聞ス、桀安弘羊等ヲ捕ヘ、宗族ヲ并セテ、盡ク之ヲ誅ス、蓋主ト且ト皆ナ自殺ス○四年、傳介子、西域ニ使メ、樓蘭王ヲ誘テ

奏ノ之ヲ廢ス
皇太后ニ奏白
ノ之ヲ廢ス

之ヲ刺殺シ、傳ヲ馳テ闕ニ詣ル、其匈奴ノ為ノニ反聞スルヲ以テナリ○元平元年、帝年二十一ニ崩ス、在位十四年、改元スル者三ツ、曰ク、始元、元鳳、元平、霍光、政ヲ為ス、民ト休息ス、天下無事、昌邑王賀ハ哀王薨ノ子、武帝ノ孫ナリ、昌邑國、光賀ヲ迎テ入テ位ニ即カシム、皇后ヲ尊テ、皇太后ト為ス、賀、淫戲度ナシ、光、奏ノ之ヲ廢シ、武帝ノ曾孫ヲ迎ヘ立ツ、是ヲ中宗孝宣皇帝ト為ス

丙吉使者ヲ拒ク圖



孝宣皇帝初ノ名ハ病已後ニ改テ詢ト
 名ツク武帝ノ曾孫ナリ初メ戾太子
 據史良娣ヲ納ル良娣アリ女官ナリ太子
 子アリ此史皇孫進テ生ム從母ノ姓ニ
 史ト進病已ヲ生ム數月ニノ巫蠱ノ
 事ニ遭フテ皆ナ獄ニ繫ル氣ヲ望ム
 者言フ長安ノ獄中ニ天子ノ氣アリ
 ト武帝使ヲ遣ハソ盡ク獄中ノ人ヲ
 殺サシム丙吉時ニ獄ヲ治ム門ヲ閉
 テ使者ヲ拒テ納レス曰ク佗人ノ辜
 ナクノ死スル者モ尚ヲ不可ナリ況

僵樹枯僵ノ柳
 樹公孫病已立
 ツ言ハ再樹已立
 ニ什テ再樹已立
 ツ此レ蓋シテ當
 時ノ識語ナリ

ヤ皇曾孫ヲヤト使者還テ報ス武帝
 曰ク天之レヲ使ムルナリト長スル
 ニ及テ高材ニノ學ヲ好ム亦游俠ヲ
 喜ム具サニ閭里ノ姦邪吏治ノ得失
 ヲ知ル曾孫吉ニ頼テ全ヲ得ル曰テ
 テ祖母史良娣ノ家ニ送ル昭帝元鳳
 中ニ泰山ニ大石アリ自ラ起立ス上
 林ニ僵樹アリ復起生ス蚕其ノ葉ヲ
 食テ文ヲ成テ曰ク公孫病已立ツト
 賀カ廢セララルニ及テ病已年十八
 光等奏ス病已躬節儉慈仁ニノ人ヲ

不[失]文學[武]勇
ツ一好[文]學[武]勇
ヲ義[士]ノ[賤]り
仁三[士]ノ[賤]り
ノ吏[貴]フ[治]獄
ナレリ正言ノ者
之レ五[誹]ト者
謂フ者之レ[遺]ト
過言ノ者之レ[遺]ト
妖言ノ者之レ[遺]ト
ナリ先王ノ法
服世ニ用ヒサ
ル七ナリ忠良
切言ハナリ[譽]
讒言ハナリ[辱]
二滿ノ[穀]ニ耳
屈美心ニ[熏]シ
實行立タサル
十ナリ地ニ[書]
ノ云々地ニ[指]

愛ス、以テ孝昭ノ後ヲ嗣ク可シト、迎
へ入テ位ニ即カシム、既ニ立ツ、六年
霍光卒ス、始テ政ヲ親ラス。○地節三
年、路温舒上書ノ言フ、秦ニ十失アリ、
其ノ一尚ヲ存ス、治獄ノ吏是ナリ、俗
語ニ曰ク、地ヲ畫ノ獄ト為ルモ、議メ
入ラス、木ヲ刻ノ吏ト為ルモ、期ノ對
セス、此レ悲痛ノ辭ナリ、願クハ法制
ヲ省メ、刑罪ヲ寬セハ、則チ太平興ル
可シト、上、為メニ廷尉ノ平ヲ置ク、尉
ニ平官、刑獄ヲ掌トルカ、獄刑號ノ平ト為ス

畫ノ、獄戸ヲ
クナル、獄戸
ヲ、獄戸
トサシ、人且
ト雖モ、人且
擬ハシ、人且
願ハシ、人且
木偶ヲ刻シ、
吏人ヲ刻シ、
真吏ヲ知ラ、
モ、且ツ知ル
對セ、且ツ知
獄刑ヲ、且ツ
其重ノ、且ツ
輕重ヲ、且ツ
勞、且ツ
ハ、且ツ
ハ、且ツ
關内侯ナリ、
賜爵ナリ、

○膠東ノ相 膠東王寄景王成、勞來怠
ラズ、治ニ異績アリ、爵關内侯ヲ賜フ
○魏相、丞相ト為ル、丙吉、御史大夫ト
為ル、姓相ハ魏名ハ。○四年、霍氏謀反ス、誅
ニ伏ス、其ノ族ヲ夷ク、告ル者皆ナ、列
侯ニ封セラル。皇后霍氏、廢セラレ、昭
臺宮ニ處ル。初メ霍氏奢縱ナリ、茂陵
ノ徐福上疏ノ言フ、宜ク時ヲ以テ抑
制シ、亡ニ至ラシムルナカルヘシト、
書三夕ヒ上ツル、聽カス、是ニ至テ、人
徐生カ為メニ上書メ曰ク、客主人ニ

賜フハ、但其爵ニ
非ラサレ、實ナリ、
後皆ナク、此ハ、
窓ナリ、直ハ、
レハ、火ヲ、
アタハス、
其埃曲ナレハ、
則テ火ヲ、
シテ、
ハ、

過ルアリ、其ノ竈ノ直埃ニ、儼ラニ
積薪アルヲ見ル、主人ニ謂フ、曲埃ニ
更メ為リテ、速ニ其ノ薪ヲ徙セト、主
人應ヘス、俄ニ失火アリ、郷里共ニ之
ヲ救フ、幸ニ息ヲ得タリ、牛ヲ殺シ、
置酒メ、其ノ郷人ニ謝ス、主人ニ謂
テ曰ク、郷ニ客ノ言ヲ聽カシメハ、牛
酒ヲ費サス、終ニ火患ナシ、今功ヲ論
メ賞スルニ、曲埃ニ薪ヲ徙ハ恩澤
ナク、頭ヲ焦シ額ヲ爛カスヲ上客ト
為スヤト、上乃チ福ニ彰ヲ賜フテ、以

驂乗ニ居リ、尊者ハ、左
中ニ居リ、御者ハ、右
人アツテ、右ニ一
居テ、以テ傾側
ニ備ス、之ヲ驂
乗ト謂フ、
苾ハ、木ノ類、
針ナリ、
針ナリ、
體舒放ナリ、
近安處親近ナ

テ郎ト為ス、帝ノ初ノ立テ高廟ニ謁
セシトキ、霍光驂乗ス、上之ヲ嚴憚ス、
苾刺ノ背ニ有ルカ若シ、後張安世、光
ニ代テ驂乗ス、上從容トノ肆體甚タ
安近ス、故ニ俗ニ傳フ、威主ヲ震ハス
者ハ、畜レス、霍氏ノ禍ハ驂乗ニ崩ス
ト○北海ノ太守〔北海〕郡、山東ニ屬朱
邑、治行第一ヲ以テ入テ太司農ト為
ル〔太司農〕九卿ノ一、治渤海ノ太守
郡、山東ニ屬、
ス、今ノ濱州、
ル〔水衡都尉〕官、上是ヨリ先キ、渤海、
苑ヲ掌トル

第蕭第ハ、竹筒
 ナリ、顔師古曰
 今ノ錢ヲ盛
 小孔ヲ為シ、
 孔ヲクシテ、
 可カクテ、用
 書ヲ受ケ、中
 投セシム、告
 許ハ、面ヲ相
 語、許ト曰、
 陰私ヲ注、
 ル、私ヲ注、
 叢落、離散、
 ナリ、距、鈎、
 シ、之、順、
 則チ、順、
 ケ、ハ、其、
 ヲケ、ハ、其、
 ヲケ、ハ、其、

止息ス、是ニ至テ、召レテ入ル。○元康
 元年、京兆ノ尹京兆三輔ノ一、今ノ趙
 廣漢ヲ殺ス、初メ廣漢、潁川ノ太守ト
 為ル、潁川潁川ノ俗、豪傑相
 屬ス、今ノ河南、潁川ノ俗、豪傑相
 友朋黨ス、廣漢鋤、鋤ヲ為クリ、吏民ノ
 投書ヲ受ケ、相告、訃セシム、姦黨散落
 盜賊發スルヲ得ス、是ニ由テ、入テ
 京兆ノ尹ト為ル、尤モ善ク鈎距ヲ為
 シ、以テ其ノ事情ヲ得ル、閭里鈎距ノ
 姦モ、皆ナ知ル、姦ヲ發シ、伏ヲ摘ム、神
 ノ如シ、京兆政清、長老傳フ、漢興テ

入レテ、出シ、
 能ハテ、其ノ
 メテ、以テ、
 隱情ヲ、
 ル、情ヲ、
 象、十、
 二、十、
 ト、十、
 フ、十、
 重、十、
 半、十、
 邪、十、
 伏、十、
 神、十、
 フ、十、
 ル、十、
 ル、十、
 ノ、十、
 ナ、十、
 ナ、十、

ヨリ、京兆ヲ治ムル者、能ク及ブナシ
 ト、是ニ至テ、人、上書ノ言フ、廣漢私怨
 ヲ以テ人ヲ論殺スト、廷尉ニ下ス、吏
 民、闕ヲ守リ、號泣スル者、數萬人、竟ニ
 坐ノ腰斬セラル、廣漢、廣明ニシテ、豪強
 ヲ威制ス、小民ハ職ヲ得ル、百姓追思
 ノ之ヲ歌フ。○尹翁歸ヲ以テ右扶風
 ト為ス、右扶風、三輔ノ一、今ノ
 メ、東海ノ太守ト為ル、過テ廷尉于定
 國ニ辭ス、定國、邑子ヲ託セ、ト欲ス、
 讒終日、竟ニ敢テ見セシメス、定國、東

男子ノ稱賢將
漢ノ制太守嘗
テ武事ヲ兼ヌ
故賢將ト曰
功三輔ノ最上
扶風ノ治為常
最京兆馮翊ノ

故ニ邑子ヲ以テ翁歸ニ託ヲ為サレ
ト欲スルナリ、語終日、竟ニ敢テ邑子
ヲ翁歸ニ見セ、曰、此賢將ナリ、汝事ニ
シメサルナリ、又于ニ私ヲ以テス可
任ヘサルナリ、言ハ、邑子ノ託、翁歸カ為メ
カラスト、任セラル、足ラス、又
私意ヲ以テ之ヲ託ス可ラス、此レ翁
蓋シ、定國退テ邑子トノ語ナリ、翁
歸、竟ニ東海ノ治、高第ヲ以テ、遂ニ乃
チ入テ扶風ヲ治ム、常ニ三輔ノ最
リ〇二年、上、匈奴ノ衰弱ニ曰テ、兵ヲ
出シ、其ノ右地ヲ撃チ、復タ西域ヲ擾
サ、ラシメント欲ス、〔右地〕今ノ甘肅、
漢、匈奴ノ右地、右ハ西ナリ、凡ソ天
東ヲ以テ、左ト為シ、西ヲ以テ、右ト為

〔務〕誇ナリ

ス、魏相諫テ曰ク、亂ヲ救ヒ、暴ヲ誅ス、
ル、之ヲ義兵ト謂フ、兵、義アル者ハ王
タリ、敵已レニ加ヘ、己ムヲ得スメ、起
ル者、之ヲ應兵ト謂フ、兵、應スル者ハ
勝ツ、小故ヲ争恨ニ憤怒ニ忍ヒサル
者、之ヲ忿兵ト謂フ、兵、忿ル者ハ敗ル、
人ノ土地貨寶ヲ利スル者、之ヲ貪兵
ト謂フ、兵、貪ル者ハ破ル、國家ノ大ヲ
恃ミ、人民ノ衆ニ矜テ、威ヲ敵ニ見サ
ント欲スル者、之ヲ驕兵ト謂フ、兵、驕
ル者ハ滅ス、匈奴未タ邊境ヲ犯ス有

圖ノ方畧ヲ云々其ノ地ヲ攻
討ノ方畧ヲ為
ルノ要害ス
阻ノ處我ニ在
テハ要ト為リ
ト彼ニ在テハ
害ハ為リ

怨ヲ生スルヲ欲セスト○神龜元年
先零諸羌ト畔ク〔先零〕種ノ名上、後將軍趙
充國ニ問ハシム、誰カ將タル可キ者
ト、充國、年七十餘、對テ曰ク、老臣ニ
踰ルナシ、復タ問フ、將軍羌虜ヲ度ル
何如シ、當サニ幾人ヲ用ユヘキ、充國
曰ク、兵ハ遙ニ度リ難シ、願クハ金城
ニ至テ、留メ、方略ヲ上ツラント、乃チ
金城ニ詣ル〔金城〕郡、鞏昌ニ屯田奏ヲ
上ツル、願クハ騎兵ヲ罷メ、歩兵万餘
ヲ留メ、分テ要害ノ處ニ屯シ、兵ヲ出

條ノ疏ヲ録ス
之ヲ三ニテ
ナリテ三ニテ
中ニ三ニテ
十ニ凡ソ七十
ノ如キ者此ノ
倣スヘキ計ヲ
任スル任ハ保
任

サスノ留田スルノ十二事ヲ條ス、奏
ヲ上ツルコトニ、輒チ公卿ニ下ノ議
セシム、初ハ其ノ計ヲ是トスル者十
ニ三、中ハ十五、最モ後ニハ十八、
魏相、其計ヲ任ス、必ス用ユ可シト、上
之ニ從フ〔十〕事大畧一ニ言フ、屯
ハル、二ニ言フ、其ノ肥饒ニ威徳並ヒ行
業ヲ失ハクサヲ待ツ、三ニ言フ、民ヲ農
ヲ服ノ河湟ニ大費ヲ省ク、四ニ言フ、騎
兵ヲ出サテ、郵亭ヲ設テ、漕ス、六ニ言
ニ言フ、阻遠ヲ坐シ、經テ死傷ノ害ニ得
ナシ、九ニ言フ、威武ヲ損セ、南ノ大開

西漢宣帝 十三

封吏吏ヲ言テ
宣泄スルヲ欲
セス、重封ノ之
ヲ上ツル

故吏舊制ナリ
二封一様ノニ
本署書ナリ

小開ヲ驚動シ、佗變ノ憂ヲ生セシム
ルナシ、十一年、言フ、遼、陞中ノ道、橋
治メ、以西域ヲ制ス、十二年、言フ、徐、役
息メ、以テ不虞ヲ戒シ、大開、小開、
皆ナシ、在種河、西、○二年、司隸校尉、
河南、扶風、左馮翊、京兆、河東、弘農、
南河、右扶風、左馮翊、京兆、河東、弘農、
ノ七郡、政ヲ總部スルヲ掌トル、故
ト、司隸校尉、蓋、寬、饒、封事ヲ奏ス、上、以テ
怨謗ト為シ、吏ニ下ス、寬、饒、自剄ス、○
三年、丞相魏相薨ス、故吏ニ上書スル
者ハ、皆ナシ、封ヲ為ス、其一ヲ署ノ副
ト曰フ、尚書ヲ領スル者、先ツ副封ヲ
發キ、言フ所口善カラサレハ、屏去ソ
奏セス、霍光、薨ノヨリ後チ、相、即チ白

郡國分テ吏ヲ
諸郡ニ案巡ス
休告假ヲ告テ
歸ルナリ

ノ副封ヲ去リ、以テ壅蔽ヲ防ク、相ト
為ルニ及ヒ、好テ漢ノ故吏、及ヒ便宜
ノ章奏ヲ觀ル、數漢興テヨリ以來、便
宜ノ行吏、及ヒ賢臣賈誼、晁錯、董仲舒
等カ言フ所ヲ條シ、請テ之ヲ施シ行
フ、掾史ニ勅ノ吏ヲ郡國ニ案セシム
フ、掾史、臺省ノ吏、及ヒ休告ノ家ヨリ還
テ府ニ至レハ、輒チ四方ノ異聞ヲ白
ス、或ハ逆賊風雨ノ災異郡ノ上言セ
サル有レハ、相、輒チ之ヲ奏言ス、御史
大夫丙吉ト心ヲ同シ、政ヲ輔久、上、皆

丙吉牛喘問圖



之ヲ重ニス、是ニ至テ、吉代テ丞相ト
 為ル、吉寛大ヲ尚テ禮讓ヲ好ム、嘗テ
 出ルニ群鬪死傷ニ逢フ、問ハス、牛ノ
 喘ニ逢テ、牛ヲ逐フテ幾里ソト問ハ
 シム、或人、吉カ問ヲ失スルヲ譏ル、吉
 カ曰ク、民ノ鬪ハ、京兆ノ當サニ禁ス
 ヘキ所ナリ、宰相ハ細吏ヲ親ラセス、
 問フヘキ所ニ非ラサルナリ、春ニ方
 テ未タ熱ス可ラス、恐クハ牛暑カ故
 ニ喘ナラン此レ時氣ノ節ヲ失スル
 ナリ、三公ハ陰陽ヲ調ナフ職トメ當

過ヲ思フ、幸ニ
 郡ノ表率、明
 教化ヲ宣、民
 ル能ハス、民
 骨肉争訟、至
 シムルニ至テ
 ハ、咎馮翊ニ
 リ、盛語、翊
 然盛ナルヲ
 厲救戒勉、厲

サニ憂フヘシト、人、以テ大體ヲ知ル
 ト為ス、○五鳳元年、左馮翊、韓延壽ヲ
 殺ス、左馮翊三輔ノ一、今陝西ニ屬ス延壽吏ト為
 リ古ノ教化ヲ好ム、潁川ノ大守ヨリ
 入テ馮翊ト為ル、民ニ昆弟相訟アリ、
 延壽大ニ之ヲ傷ミ、病ヲ移シ、吏ヲ聽
 カス、曰テ、閉ノ卧ノ過ヲ思フ、訟
 者各悔ヒ復シ争ハス、郡中翕然トシ
 相ヒ勅厲ス、恩信周偏ニシ、復シ詞訟
 アルナシ、民吏其ノ至誠ヲ推シ、欺給
 スルニ忍ヒス、是ニ至テ、吏ニ坐シ、棄

市セラル、百姓流涕セサルナシ東延壽
 在ル時、車服侍衛、奢僭ノ等ニ
 逾ル吏ヲ以テ、棄市セララルナリ
 年丙吉薨ス、黃霸丞相ト為ル、霸嘗テ
 穎川ノ太守ト為ル、吏民神明メ欺ク
 可カラスト稱ス、教化ヲガノ、誅罰ヲ
 後ニス、長史許丞、老テ聾ヲ病ム長史
 郡ヲ主トル、即チ郡丞ナリ、又督郵督郵
 治中ト曰フ、又別駕ト曰フ、督郵督郵
 ノ之ヲ逐ハント欲ス督郵官、郡吏ヲ
 トル、即チ郡ノ錄吏、霸カ曰ク、許丞ハ
 今此ノ職ヲ廢ス、廉吏ナリ、老タリト雖モ、尚ヲ能ク拜
 起ス、重聽スル何ソ傷マン、數長吏ヲ

易ヘハ故ヲ送リ、新ヲ迎ルノ費、及ヒ
 姦吏回縁シ、簿書ヲ絶チ、財物ヲ盜ミ、
 公私ノ費耗、甚ク多カラン、易ル所ノ
 新吏、又未タ必シモ賢ナラス、或ハ其
 ノ故ニ如カシ、徒ニ相益ノ亂ヲ為サ
 シ、凡ソ治道ハ、其ノ太甚者ヲ去ルノ
 ミト、霸外寛ニ内明ナルヲ以テ、吏民
 ノ心ヲ得タリ、治天下ノ第一タリ是
 ニ至テ、吉ニ代ル、霸カ材ハ民ヲ治ル
 ニ長ス、相ト為ルニ及ンテ、功名ハ郡
 ヲ治ル時ヨリ損ス○四年、太司農耿

之ヲ戒シム云
 大廢退ス
 宜スク屏去ノ
 懼メテ以テ
 治メテハカ
 自ラ娛ムヘカ
 伏臘ハ伏日

壽昌白ス、邊郡ヲノ皆ナ倉ヲ築カシ
 メ、穀賤ケレハ價ヲ増テ、糴ノ以テ農
 ヲ利シ、穀貴ケレハ價ヲ減メ糴ノ以
 テ民ヲ利ス、名ツケテ常平倉ト曰フ
 ○前ノ光録勳光録勳九卿ノ一、官掖
 郎、光卿ナリ、武帝
 改テ光録勳ト曰フ揚惲ヲ殺ス、惲廉
 潔ニシテ私ナシ、人、上書ノ惲妖惡ノ言
 ヲ為スト告ク、免ノ庶人ト為ス、惲家
 居シ、産ヲ治テ、自ラ娛ム、其ノ友孫會
 宗、之レヲ戒ム、惲報メ曰ク、過大ニシ
 行虧ク、當サニ農夫ト為リ、以テ世ヲ

前ニ見ユ、臘三ハ
 冬至ノ後、第
 ノ戌ノ日ヲ臘
 日ト為ス、熱シ
 酒後、耳熱シ
 猶ヲ酒カ、酣暢
 ト言フコトナキ
 ナリ、〔金〕瓦器ナ
 リ、之ヲ擊テ以
 テ、〔秦〕節、〔南〕山、〔高〕鳴
 キ、〔陽〕色、〔南〕山、〔高〕人
 君ノ象ナリ、箕
 豆莖ナリ、豆莖
 零落ノ野カニ在
 ルハ、巴、〔野〕カニ放
 棄セラレ、〔野〕カニ放
 喻フナリ

没スヘシ、田家ノ作苦、歲時ノ伏臘、羊
 ヲ烹テ、羔ヲ炮キ、斗酒自ラ勞フ、酒後
 ニ耳熱シ、天ヲ仰テ、缶ヲ拵テ鳴カト
 呼フ、其ノ詩ニ曰ク、田彼南山、蒸穢不
 治、種一頃、豆落而為箕、人生行樂耳、須
 富貴、何時、是ノ日ヤ、袖ヲ奮テ低叩シ、
 頓足起舞シ、誠ニ淫荒度ナクメ、其ノ
 不可ナルヲ知ラサルナリ、人、上書メ
 告ス、惲驕奢ニメ悔ズト、廷尉ニ下ル、
 會宗ニ與ル、所ノ書ヲ案得シ、帝見テ
 之ヲ惡シ、大逆無道ヲ以テ腰斬ス○

其ノ奏ヲ寢ム
寢ト曰フ言
ハ其ノ奏ヲ留
テ公卿ニ下サ
ルナリ
ハ歸舜ノ力為
メニ奏ヲ竟ヘ
肯セ私ニ其
ノ家ニ歸ル五
日云ル敞章効
アリ三五日ニ
ソ當サキ免セ
ラルヘキヲ謂
フ亡命逃ナリ
亡ハ無ナリ命
ハ名ナリ逃ハ
スレハ則チ匿
籍ヲ削リ除ク
故ニ逃ヲ以テ
亡命トナス
鼓トナス
亡命トナス
鼓トナス

甘露元年、公卿奏ス、京兆ノ尹張敞ハ
憚カ黨友ナリ、宜ク位ニ處ク可ラス
ト、上、敞カ材ヲ惜テ、其ノ奏ヲ寢ム、敞
掾絮舜ヲソ案驗スルアラシム〔絮ハ姓〕
ハ舜、家ニ歸テ曰ク、五日ノ京兆
ノミ、安ソ能ク復タ吏ヲ案セント、敞
舜カ語ヲ聞テ、即チ収テ獄ニ繫キ、竟
ニ其ノ死ヲ致ス、後チ舜カ家ノ為メ
ニ告ケラル、敞、上書ノ闕下ヨリ亡命
スル歳餘、京師抱鼓ノ數警ム、上、敞カ
能ク思テ、復ク之ヲ召シ用ユ
敞既視

ツ杖ナリ、鼓ヲ
擊テ衆ヲ警ム
ルユヘンナリ、
數警ハ、偷盗ノ
多キヲ言フナリ

〔姑〕夫ノ母ヲ、姑
ト曰フ

ル、長安ノ父老、偷盜ノ苗長、數人ヲ求
ム、居皆ナ温厚、出ルニ童騎ヲ召見テ、問
テ、其ノ罪者ト為シ、其ノ宿賈ヲ把リ、諸
長、曰ク、令一且召テ、府ニ詣ル、恐クハ、偷
諸、皆ナ驚駭セシ、願クハ、一且切署ヲ受ク、
敞、皆ナ驚駭セシ、願クハ、一且切署ヲ受ク、
偷、皆ナ驚駭セシ、願クハ、一且切署ヲ受ク、
間、長坐シ、以テ其ノ衣、且歸シ、置酒セ、
レハ、輒チ収縛ス、一、窮治ス、或ハ捕
ヒ得メ、百餘ヲ發ナリ、盡レク、罰ヲ行フ、
人ニ由テ、盜ナシ、帝之ヲ嘉ス、
是ニ由テ、盜ナシ、帝之ヲ嘉ス、
市ニ偷盜ナシ、帝之ヲ嘉ス、
卒ス、子定國、丞相ト為ル、定國カ父、于
公初メ縣ノ獄吏ト為ル、東海ニ孝婦
アリ、寡居メ嫁セス、以テ其ノ姑ヲ養

其ノ故前ノ太
守孝婦ヲ論殺
スルノ故冢墳
ナリ釋名ニ曰
ク冢ハ腫ナリ
山頂ノ腫起ニ
象トル

フ、姑年老テ、婦ノ嫁ヲ妨クルヲ以テ、
自經ノ死ス、姑ノ女、婦遊テ其ノ母ヲ
誣スト告ク、婦辯スル能ハス、自ラ誣
服ス、于公之ヲ争ヘ、得ル能ハス、東
海枯旱スル三年、後ノ太守来ル、公其
ノ故ヲ言フ、太守、孝婦ノ冢ヲ祭ル、遂
ニ雨フル、于公、獄ヲ治テ陰徳アリ、門
閭ヲ高大ニシ、駟馬ノ車ヲ容ヘカラ
シム、曰ク、吾カ後世、必ス興ル者アラ
ノト、子定國、地節元年ヲ以テ、廷尉ト
為ル、朝廷之ヲ稱メ曰ク、張釋之、廷尉

寛民ナシ決罪
皆ナ當ヲ言フ
ナリ寛ナラズ
其ノ寛平皆ナ
ヲ知枉ノ慮ナ
キ

塞ヲ款ク塞門
ヲ叩キ来テ服
従スルナリ

ト為テ天下ニ寛民ナシ、于定國、廷尉
ト為テ民、自ラ以テク寛ナラスト、是
ニ至テ、御史大夫ヨリ、霸ニ代ル○匈
奴亂ル、五單于争立ツ〔五單于屠耆單
于、呼韓邪單于、呼揭單于、車犁
單于、烏籍單于〕呼韓邪單于、上書ス、願
クハ塞ヲ款テ藩臣ト稱セント、甘露
三年ニ来朝ス、詔ノ客禮ヲ以テ、之ヲ
待ス、諸侯ノ上ニ位ス○上、戎狄ノ賓
服スルヲ以テ、股肱ノ美ヲ思ヒ乃チ
其ノ人ヲ麒麟閣ニ圖畫ス〔麒麟閣安
西ニアリ〕
漢ノ未央宮ノ内、蕭何ノ造、惟霍光ノ
ル所、以テ秘書ヲ裁ル者

本始即位ノ改元ニ
 年戊申閏門ヲ改元
 ス閏閏門ヲ改元
 ト曰フ樞機樞機
 ハ戸ノ樞機樞機
 要式品第法式
 品式品第法式
 刺史詔條ヲ奉
 ノ州郡ヲ察ス
 ル百石以上秩
 六守八郡守相
 ハ諸侯王ノ相
 ナリ

ミ名イハズ大司馬大將軍博陸侯姓
 ハ霍氏ト曰フ其ノ次ハ張安世韓增
 趙充國魏相丙吉杜延年劉德梁丘賀
 蕭望之蘇武凡テ十一人皆十功德ア
 リ名ヲ當世ニ知ラル博陸城、荊州ニ
 姓 ○帝在位改元スル者七ツ曰ク本
 始地節元康神爵五鳳甘露黃龍凡テ
 二十五年ニメ崩ス杜陵ニ葬杜陵
 鳳翔府帝閣閣ヨリ興テ民吏ノ艱難
 ニメ品式備具ス刺史守相ヲ拜スル
 ヲ知ル精ヲ勵シ治ヲ為ス樞機周密

良二千石ニ謂
 石ハ守相ヲ謂
 フナリ良ハ良
 賢ノ善ク百姓
 ヲ拍摩ナスル
 ヲ謂フナリ者

御書詔書ナリ
 秩印ヲ壘書ト
 フ秩爵品ナリ
 表スル所ニテ
 賜テ以テ之ヲ
 表異ナル者ヲ
 謂フナリ信賞
 必罰必ナリ審
 リ信ノ而審ナ
 ニ賞ス審ニ罰
 而ノ後ニ罰ス

ニ輒チ親ラ見問ス常ニ曰ク民ノ其
 ノ田里ニ安ンメ歎息愁恨ノ殷ナキ
 者ハ政平ニ訟理ナレハナリ我ト此
 ヲ共ニスル者ハ其レ惟良二千石カ
 以為モハラ太守ハ吏民ノ本ナリ數變易
 スレハ則チ民安カラスト故ニ二千
 石治理ノ效アレハ輒チ壘書ヲ以テ
 勉厲シ秩ヲ増シ金ヲ賜フ公卿缺レ
 ハ則チ讚表スル所ヲ選テ次ヲ以テ
 之ヲ用ユ漢世ノ良吏是ニ於テ盛大
 リト為ス信賞必罰名實ヲ綜覈シ政

亡ヲ推シ存ヲ固ス言ハ無道ノ者アレハ則チ道ヲ存スル者アレハ輔テ之ヲ固スルナリ誓首頭地ニ至ルヲ誓首ト曰フ中興殷ノ高宗周ノ宣王皆ナ中興主

夏文學法理ノ士ハ威ク其ノ能ヲ精フシ、吏ハ其ノ職ニ稱ヒ、民ハ其ノ業ヲ安ニス、匈奴ノ衰亂ニ遭ヒ、信テ亡ヲ推シ存ヲ固シ、威ヲ北夷ニ信フ、單于、義ヲ慕ヒ、誓首メ藩ト稱ス、功、祖宗ニ光リ、業、後裔ニ垂ル、中興德ヲ高宗周宣ニ倣スト謂ツ可シ、太子位ニ即ク、是ヲ孝元皇帝ト為ス
〔孝元皇帝〕名ハ爽、初メ太子タリ、柔仁ニメ儒ヲ好ム、宣帝ノ用ユル所口文法ノ吏多ク、刑名ヲ以テ、下ヲ繩スヲ見

賊一視ヲ亂スナリ、一説ニ、目ニナト常主ナキヲ、賊ト曰フ

テ嘗テ燕スルトキ、從容トノ言フ、陛下刑ヲ持スル、太夕深シ、宜ク儒生ヲ用ユヘシト、宣帝色ヲ作ノ曰ク、漢家自ラ制度アリ、本ト霸王ノ道ヲ以テ之ヲ雜ユ、奈何ソ純ハラ徳教ニ任メ、周政ヲ用ヒンヤ、且ツ俗儒ハ時宜ニ達セス、好テ古ヲ是トシ、今ヲ非トシ、人ヲノ名實ヲ眩シ、守ル所ヲ知ラサラシム、何ソ委任スルニ足ント、乃チ歎ノ曰ク、我カ家ヲ亂ル者ハ、太子ナラント、太子、母家、許氏ニ依ル、許后、霍

毒死宣帝ノ本始三年ニ許后
始三年ニ許后
娘ニ當テ病ス
霍光ノ妻顯女
醫淳于衍ヲシ
之ヲ赤殺セシ
ノテ其ノ女成
君ヲ以テ皇后
ト為ス

氏ノ毒ヲ以テ死ス、故ニ太子ヲ廢ス
ルニ恐ヒス、是ニ至テ、位ニ即ク。○初
元元年、皇后王氏ヲ立ツ王莽ノ禍實此ニ崩ス
○二年、蕭望之、周堪、及ヒ宗正劉更生
ヲ獄ニ下ス〔宗正〕官、公族ノ掌トル、皆更生、後ニ向ト改名ス
ナ免ノ庶人ト為ル、時ニ史高宣帝ノ母黨
外屬ヲ以テ、尚書ノ更ヲ領ス、望之、堪
之ニ副タリ、二人ハ帝ノ師傅、數治亂
ヲ言ヒ、正更ヲ陳フ、更生ヲ給更中ニ
選ヒ、侍中金敞ト並ニ左右ニ拾遺シテト
リ〔給更中〕官、左右ノ顧問、應對ヲ掌ト
ル、以テ殿中ニ更ルアリ、故ニ給更ト

外黨云々外黨
ナシトハ骨肉
ノ親少ク婚姻
ノ家ナキナリ
ノ白決、奏白ノ
ノ決、斷ス、内
賊胸中、意ヲ用
ユル深ク、人ヲ
賊害スナリ、詭
辯、變詐ノ辯ナ

中ノ四人心ヲ同フノ、謀議ス、史高ハ
位ニ充ルノミ、是ニ由テ、望之下隙ハ
リ、中書令弘恭〔中書令〕官、中書ヲ掌、僕
射石顯〔射〕官、相モ亦、僕射ト曰フ、漢ノ百
尚書博士ヨリ皆ナリ、古ハ秦官、侍中
重シク、射ヲ主テ、以テ之ヲ督課スル
ア宣帝ノ時ヨリ、久ク樞機ヲ典ル、帝
ノ位ニ即クニ及テ、多疾ナリ、顯力中
人ニシテ、外黨ナキヲ以テ、遂ニ委スル
ニ政更ヲ以テス〔中人〕更、大小トナリ、
顯ニ曰テ白決ス、貴幸朝ヲ傾ク、百僚
皆ナ顯ニ敬更ス、顯、巧慧ニシテ、更ニ習

表裏表ハ、衣ノ外ナリ、裏ハ、衣ノ内ナリ、言ハ、内相應スル、衣ノ外表裏ノ如キナリ、〔樞機〕中書都堂ハ、乃チ庶政ノ樞機ヲ總シ、天子ノ建白ヲ裁ス、刑人云々、禮ノ側ニ曰ク、刑人ヲ刑ス、君

ヘリ、能ク人主ノ微旨ヲ探リ得タリ、内深賊ニシテ、詭辯ヲ持シ、以テ人ヲ中傷ス、高ト表裏ス、望之等、外戚許史ノ放縱ナルヲ患ヘ、〔許史〕許史ハ、許高又恭顯カ權ヲ擅ニスルヲ疾テ、建白ス、以テ為ラク、中書ハ政ノ本ト、國家ノ樞機宜ク通明公正ヲ以テ、之ヲ處スヘシ、武帝、後庭ニ遊宴ス、故ニ宦者ヲ用ユ、古制ニ非ラサルナリ、宜ク中書ノ宦官ヲ罷ノ、古ノ刑人ヲ近ツケサルノ義ニ應スヘシト、上從フ能ハス、恭顯奏

〔夏〕
夏ヲ視セシム
政親視ス

ス、望之、堪、更生、朋黨ニ相ヒ稱譽メ、數大臣ヲ譖詐シ、親戚ヲ毀離シ、以テ專ハラ權勢ヲ擅ニシ、不忠ヲ為サント欲ス、上ヲ誣ル不道ナリ、請フ謁者ヲノ召テ、廷尉ニ致サント、時ニ上初ラ位ニ即キ、召テ廷尉ニ致シテ獄ニ送ルト為ステ省セス、其ノ奏ヲ可トス、後、上堪、更生ヲ召ス、曰ク、獄ニ繫クト、上大ニ驚テ曰ク、但、廷尉ノ問ノミニ非ラスヤト、出テ夏ヲ視セシム、恭顯、高ヲノ上ニ説カシム、上、竟ニ罷免ス、

目ヲ側ツ畏ル
貌〔誠〕辭ノ塞カ
ルヲ、誠ト曰フ

後ニ上復々堪更生ヲ徵メ、中郎ト為
ス、且ツ望之ヲ以テ相ト為サント欲
ス、恭、顯、許、史、皆ナ目ヲ側ツ、望之ノ素
ヨリ高節ニメ、誣辱セサルヲ知リ、建
白ス、望之、過ヲ悔ヒ、罪ニ服セス、深ク
怨望ヲ懷テ、自ラ以テ師傅ニ託ス、終
ニ必ス坐セラレス、頗ル望之ヲ獄ニ
屈メ、其ノ怏怏ノ心ヲ塞ニ非ラス
ハ、則テ聖朝以テ恩厚ヲ施スナケン
ト、上ノ曰ク、太傅、素ヨリ剛ナリ、安シ
ソ、敢テ吏ニ就ント、顯等曰ク、人命ハ

〔憂〕ル所ナシ
ハ、坐スル所ニ
薄罪ヲ以テ之
ヲ召セラハ望
必ス来ラシ、而
メ憂ルニ足ル
ナキナリ

〔北〕ヨリ庭ニ歸
朝スルヨリナ
リ

至重ナリ、望之カ坐スル所ハ、言語ノ
薄過ナリ、必ス憂ル所ナシト、謁者ヲ
メ望之ヲ召ハシメ、自テ急ニ執金吾
ノ軍騎ヲ發メ、馳テ其ノ第ヲ圍シム
〔執〕金吾軍衛ノ官、吾ハ御ナリ、常ニ金
車ヲ執リ、以テ非常ヲ禦ク、一説ニ金
吾ハ杖ナリ、銅ヲ以テ之ヲ為ル、金ヲ
以テテ末ニ塗ルト、前説是ニ近シ
望之、鳩ヲ飲テ自殺ス、弘恭死ス石
顯、中書令ト為ル、五年、匈奴郅支單
于、漢ノ使者ヲ殺メ、西ノ方康居ニ走
ル、〔康居〕國、西
單于、北ヨリ庭ニ歸ス、○建昭二年、魏

獄ニ下シ棄市
ス、見ユ
ニ通

郡ノ太守、京房ヲ殺ス〔魏郡〕河東ニ屬ス、今ノ大名府
房、易ヲ焦延壽ニ學フ、延壽嘗テ曰ク、
我カ道ヲ得テ、以テ身ヲ亡ホ景サン者ハ、
京生ナラント、郎ト為リ、屢災異ヲ言
フ、驗アリ、嘗テ宴見メ、夏ヲ言フ、意石
顯ヲ指ス、顯奏メ之ヲ出ス、尋テ徵メ
獄ニ下メ、棄市ス。○顯威權日ニ盛ナ
リ、中書僕射牢梁〔牢梁〕姓名少府五鹿充宗
〔少府〕官、管繕ヲ掌トル、即チ將作監ナリ、五鹿ハ、姓、充宗ハ、名、結テ黨
友ト為ル、諸ノ附倚スル者、寵位ヲ得
タリ、民之ヲ歌テ曰ク、牢邪、石邪、五鹿

累々重ナル貌
若ク長キ貌
藁街蠻夷ノ處故
スル所ノ頭ヲ此
ニ懸テ、以テ之
フ示ス

客邪、印何、累々、綏若々、邪ト。○三年、西
域ノ副校尉、陳湯、制ヲ矯テ兵ヲ發シ、
都護甘延壽ト、郵支單于ヲ、康居ニ襲
撃テ、之ヲ斬ル〔都護〕官、西域ヲ監スル四年、
春、首ヲ傳テ京ニ至ル。藁街ニ懸ル十
日。○竟寧元年、呼韓邪單于來朝ス、願
クハ漢ニ壻タラント、後宮ノ王嬙字
ハ昭君ヲ以テ、之ニ賜フ。○帝崩ス、在
位十六年、改元スル者四ツ、初元、永光、
建昭、竟寧、帝儒術ヲ喜ミ、韋玄成、匡衡
ヲ得テ、相ト為スト、雖モ、相業ナシ、帝

〔甲〕觀太子ノ宮
 〔乙〕觀アリ蓋
 〔丙〕青蒲ノ
 〔丁〕青蒲ノ
 〔戊〕以テ地ニ規
 〔己〕皇太后ニ非サ
 〔庚〕得ハ此ニ至ル
 〔辛〕緣ヲ以テ蒲席
 〔壬〕一説ニ蒲青
 〔癸〕以テ席ト為
 〔甲〕用テ地ヲ蔽
 〔乙〕長ナリ

徒ニ優游不歸ナリ、漢業コ、ニ衰フ、
 太子位ニ即ク、是ヲ孝成皇帝ト為ス
 孝成皇帝名ハ驚母ハ王氏、帝ヲ甲觀ニ
 生ム、少メ經書ヲ好ム、其ノ後酒樂ヲ
 幸メ、燕樂ス、元帝ノ時、太子ト為人、幾
 ト廢セラレントス、史丹青蒲ニ伏メ、
 涕泣メ諫ルニ賴テ止ム、是ニ至テ、位
 ニ即ク、王氏ヲ尊テ、皇太后ト為ス、元
 舅、王鳳ヲ以テ、大司馬大將軍ト為ス、
 尚書ノ吏ヲ領セシム、〔王鳳〕王禁ノ子、
 太后ノ同母弟、
 ○建始元年、石顯、罪ヲ以テ免歸ス、道

〔罪免〕御史、舊惡
 ヲ條奏ス

ニ死ス ○舅、王崇ヲ封メ、安成侯ト為
 ス、〔王崇〕太后弟、譚、商、立、根、逢、時、ニ爵關内
 侯ヲ賜フ、黃霧四ニ塞カル、譚ナリ、立ナ
 リ、根ナリ、逢時ナリ、皆ナ王太后ノ
 異母弟、時ニ王氏ノ五侯ト稱ス ○
 河平二年、悉ク諸舅ヲ封メ、列侯ト為
 ス、譚ハ、平河侯ト為ル、商ハ、成都侯ト
 リ、逢時ハ、高平侯トク、同日ニ侯ト封
 セラ、故ニ世ニ王氏ノ五侯ト謂フ
 ○陽朔三年、王鳳卒ス、王音大司馬ト
 為ル、〔王音〕王弘ノ子ナリ、弘ハ、禁カ弟、
 ト從父弟、王譚、城門兵ヲ領ス ○鴻嘉四
 年、王譚卒ス、王商、城門兵ヲ領ス ○永

輯集ト同シ之ヲ補ヒ合スヲ謂フナリ威儀神ノ若シ善ク容儀ヲ脩テ尊嚴ナル神ノ如シ

諍ス、上ノ意乃チ解ク、當サニ楹ヲ治ムヘキニ及テ、上ノ曰ク、易ルナカレト、曰テ之ヲ輯テ以テ直臣ヲ旌ス。○綏和元年、王根病テ免ス、王莽大司馬ト為ル。○二年、帝崩ス、在位二十六年、改元スル者七ツ、曰ク、建始、河平、陽朔、鴻嘉、永始、元延、綏和、帝威儀アリ、朝ニ臨テ神ノ若シ、然レ臣酒色ニ荒ミ、政外家ニ在リテ、張禹、薛宣、翟方進、相ト為リ、漢業愈コ、ニ衰フ、太子位ニ即ク、是ヲ孝哀皇帝トナス

第一ニ就カシム
私第ニ歸ルナリ

〔孝哀皇帝〕名ハ攸、定陶恭王、康子、元帝ノ孫ナリ、祖母ハ傅氏、母ハ丁氏、成帝子ナシ、故ニ立テ太子ト為ル、是ニ至テ即位ス、丁傅、夏、太后ノ兄弟、傅皆ナリ、侯ト為大司馬、莽ヲ罷テ第一ニ就シム。○建平元年、夏、賀良カ言テ用ユ、〔夏賀良〕夏ハ名、漢歷中コ口衰フ、當サニ天命ヲ更メ受クヘシ、宜ク急ニ改元ノ號ヲ易ヘシト、乃チ太初ト改元シ、陳聖、劉、太平、皇帝ト更號ス、義、聖、劉、數、陳、スルニ、尋テ改元更號ノ更ヲ罷取ルナリ

董賢ヲ幸ス通
監出レハ則
ハ驂乗シ入レ
貴朝廷ニ御フ
建平即位二年
改元

夏賀良等誅ス○帝董賢ヲ幸ス元
壽元年賢ヲ以テ大司馬ト為ス二年
帝崩ス賢自殺ス莽太后ノ詔ヲ
以テ賢カ大司馬ノ
第ニ就カシム賢即
印綬ヲ收メ罷テ第ニ就カシム賢即
日ニ自殺ス○董賢字ハ聖卿雲陽ノ
人ナリ人ト為リ美兼ヲ自ラ喜ム哀
帝拜ノ黃門郎ト為ス寵愛日ニ甚シ
駙馬都尉侍中ト為ル旬月ノ間ニ賞
賜鉅万ヲ累又常ニ上ト與ニ起卧ス
嘗テ晝寢ス上ノ袖ヲ偏藉ス上起
ト欲スルニ賢未ク覺ス賢ヲ動スヲ
欲セス逆チ袖ヲ斷テ起
○帝在位七
年改元スル者二ツ曰ク建平元壽太
皇太后元帝ノ王莽ヲ以テ大司馬ト
為シ尚書ノ夏ヲ領セシム中山王ヲ

己ヲ總テ以テ
職ヲ總テ命ヲ
職ヲ聽テ命ヲ
莽ニ聽シ宰衡
周公太宰ト為
リ伊尹阿衡ト
為ル伊周ノ尊
ヲ采テ以テ莽
ニ加フテ莽

迎テ位ニ即カシム是ヲ孝平皇帝ト
為ス
孝平皇帝名ハ箕子後ニ名ヲ衍ト更ム
中山孝王興ノ子元帝ノ孫ナリ哀帝
崩ス立テ嗣ト為ル太皇太后朝ニ臨
△傳太后丁太后皆ナ先ニ薨大司馬
ス故ニ太皇太后朝ニ臨ム
王莽政ヲ秉ル百官己レヲ總テ以テ
聽ク元始元年莽ヲ安漢公ト為ス○
四年莽カ女ヲ聘ノ皇后ト為ス安漢
公ニ加ヘ宰衡ト號ス諸侯王ノ上ニ
位ス○五年太師孔光卒ス成哀以來

九錫、輿馬、樂則、衣服、朱戶、虎賁、納陛、弓矢、鉞、鉞、前、後、錫、口、異、同、レ、大、率、九、者、而、レ、即、出、テ、ス、元、始、即、位、ニ、テ、祭、祀、ノ、元、謂、郊、祀、シ、明、地、宗、祀、シ、宗、廟、ヲ、共、祭、シ、神、享、祭、ヲ、稱、ノ、假、皇、帝、ト、曰、フ

光等三公ト為リ、漢ノ禍ヲ養ヒ成ス、諂倭風ヲ成ス、上書ノ莽ヲ頌スル者、四十八萬人ニ至ル、莽ニ九錫ヲ加フ、○臘日ニ、莽、椒酒ヲ帝ニ上ツル、毒ヲ置ク、帝崩ス、在位六年、改元スル者一ツ、曰ク、元始、太皇太后、詔ノ宣帝ノ玄孫嬰ヲ徵シ、皇太子ト為ス四世ノ孫、曰フ、東平王曾孫、號ノ孺子嬰ト曰フ、莽、攝ニ居テ、祚ヲ踐ム、贊スルニ假皇帝ト曰フ、民臣ハ之ヲ攝皇帝ト謂フ

〔孺子嬰〕嗣クルノ初メ、是ヲ王莽居攝元

居攝、嬰、皇、太、子、ト、キ、莽、攝、ル、者、ニ、改、元、ス、凡、テ、攝、三、年、初、始

〔聲色〕聲樂、女色

年ト為ス、劉崇兵ヲ起メ、莽ヲ討ス、克スメ死ス、○二年、東郡ノ太守、翟義、故ノ丞相方進、子ナリ東郡山東二屬、兵ヲ起メ、莽ヲ討ス、克スノ死ス、○初、始、元年、莽、真天子ノ位ニ即キ、國ヲ新ト號ス、漢ノ太后ヲ更號シ、新室ノ文母、太皇太后ト曰フ、王莽ハ、王曼ノ子ナリ、孝元皇后ノ兄弟八人王鳳、王崇、王、テ凡テ、獨曼早死シ、侯タラス、莽、幼ニ孤ナリ、群兄弟皆ナ將軍タリ、五侯ノ子、時ノ侈靡ニ乘メ、輿馬聲色ヲ以

節ヲ折ルノ以テ
服ヲ折ルナリ
諸父曰叔節操
風調ヲ操スル
ア操ヲ守スル
アルヲ節ト曰

テ、侯游メ相高フル、莽節ヲ折テ、恭儉
ヲ為シ、身ヲ勤メ博ク學フ、被服、儒生
ノ如シ、外英俊ニ交リ、内、諸父ニ敬テ、
曲ニ禮意アリ、新都侯ニ封セラル、爵
位益尊ク、節操愈謙ナリ、虚譽隆洽、其
ノ諸父ヲ傾ク、遂ニ漢ノ政ヲ得タリ、
哀帝崩メ、平帝ヲ迎立シ、五年ニノ帝
ヲ弒シ、位ヲ攝スル三年、竟ニ位ヲ篡
ヒ、國ヲ新ト號ス ○始建國元年、孺子
嬰ヲ廢メ、定安侯ト為ス 後世、權臣、命
主ヲ降誦スル、實
ニ莽ヨリ始ル ○天鳳四年、荊州ノ

久次久ク遷轉
セサルナリ
太玄易ニ擬ス
法言論語ニ擬ス

盜起ル〔荊州〕湖北ニ屬 新市ノ人、王匡、
之カ帥トナル〔新市〕邑、江馬武、王常、成
丹、往テ之ニ從フ、綠林山ニ據ル〔綠林〕
ニア ○五年、漢ノ太皇太后、王氏崩ス
○莽カ大夫、揚雄死ス 書メ、莽カ大夫
フ者ハ、其ノ莽ニ隨ヒテ漢雄、字ハ子
ニ不忠ナルヲ以テナリ 雄、字ハ子
雲、成帝ノ世、賦ヲ奏スルヲ以テ郎ト
為リ、黃門ノ内ニ給直ス、三世マテ官
ヲ徙ズ〔三世〕成帝、平帝、莽カ篡ニ及テ、耆老
久次ヲ以テ、轉メ大夫ト為ル、嘗テ太
玄法言作り、卒章ニ莽カ功德ヲ稱メ、

錯刀錯ハ塗ナ
 リ、黄金ヲ以テ
 其文ニ錯ル、一
 刀直ハ五ノト
 曰フ契刀ノ環
 大サ形ノ如シ、
 身ノ長サニ寸
 如シ、長サニ寸
 文ニ契刀直ハ
 五、百ト曰フ、
 錢徑リ寸二分、
 重サ十ニ、又
 大錢直ハ五、
 ト曰フ、五銖、
 武帝ノ鑄ル所
 重サ五銖ナリ

汗ラ流シ、言フ能ハス、大赦ノ更始ト
 改元ス宛ニ都ス○更始元年即チ莽
 年劉秀大ニ莽カ兵ヲ昆陽ニ破ル○
 成紀ハ隗囂ノ兵起ル成紀隗囂縣素○公
 孫述兵ヲ成都ニ起ス府、四川ニ屬ス、
 ○更始將ヲ遣ハシ、武關ヲ破ル、析人
 鄧曄兵ヲ起シ、長安ニ迎へ入ル折邑
 屬衆兵莽ヲ誅ノ首ヲ傳へ、更始ニ
 請ス、莽未タ篡セサル時、官名及ヒ十
 二州界ヲ更定ス、罷置改易ノ天下多
 更ナリ、錯刀契刀大錢等ノ貨ヲ更造

劉秀莽カ兵ヲ昆陽ニ
 破ル圍



スノ錢ニ名ツケテ、刀ト為スハ、其既ニ
 位ヲ篡フ、劉ノ字卯金刀ナルヲ以テ
 ヤ、剛卯金刀ノ利ヲ禁ス卯金刀、劉ノ字、卯ニ
 从ヒ、金ニ从ヒ、卯ニ从ヒ、此ノ刀ニ从フ、
 月、長サ三寸、廣サ一寸、或ハ桃ヲ用ユ、
 フ、或ハ金ヲ用フ、其一面ニ銘ヲ正、月剛
 著トテ、之ヲ佩テ、以テ邪厲ヲ辟ノ、金刀
 卯、莽ト曰フ、佩テ、以テ邪厲ヲ辟ノ、金刀
 ハ、莽カ、剛卯ハ、邪ヲ辟ル者ニ非ラナ
 リ、一説ニ、剛卯ハ、國姓ヲ尊ナリ、正行
 ス、剛ハ、佩テ、國姓ヲ尊ナリ、正行
 月、之ヲ佩テ、國姓ヲ尊ナリ、正行
 得ス、錯刀、契刀、五銖ノ錢等ヲ禁ス、天
 下ノ田ヲ更名シ、王田ト曰フ、買賣ス
 ルヲ得ス、男口ハニ盈タス、田一井

檻車鎖頸車ハ、囚車ナリ、板ヲ以テ四周ノ檻ヲ為リ、通見スル所ナキナリ、鎖頸ハ鎖ヲ以テテ頸ヲ束ヌルナリ、置警ト同シ、衆口ノ愁色、威斗五色ノ藥石及ヒ銅ヲ以テ之ヲ為ル、其ノ威ヲ雄辯ノ威斗ト曰フ、故

ニ布ト曰フ重サ二十五銖、直ヒ貨泉二十ノ五、貨泉ハ、徑リ一寸、重サ五銖、文、右ニ貨ト曰ヒ、左ニ泉ト曰フ、枚トニ直ヒ一、貨布トニ品並ヒ行ハル一タヒ錢ヲ易ルコトニ民又大ニ鑄錢法ニ階犯ス、檻車鎖頸ノ傳テ長安ニ詣ル者、十方ヲ以テ數フ、死、十二六七、制度ヲ改易シ、政令煩多ナリ、四方囂然トノ謳吟シ、漢ヲ思フ久シ、歲旱饑アリ人相食ミ、遠近ニ兵起ル、莽五石ノ銅ヲ以テ、威斗ヲ鑄ル、北斗ノ状ノ如シ、以テ衆兵ヲ厭勝セント欲シ、出入ニ人ヲノ之ヲ負テ以テ行カシ

鬻切肉ヲ、鬻ト曰フ、謂ハ、節逐ヒ、其ノ體ヲ分テ之ヲ切ル

ハ、漢ノ兵宮ニ入ニ至テ、猶ヲ席ヲ施シ、斗柄ニ隨テ坐ス、漢ノ兵、宣平門ヨ及フ、承明皇后曰ク、何ノ面目アツテ漢家ヲ見シト自ラ火中ニ投ノ死ス、莽、火ヲ宜ク曰ク、天德ヲ我ニ生ス、漢兵室ニ避ク如何セント、首ヲ漸臺ニ斬ル、軍人、其ノ身ヲ分チ、節解ノ之ヲ鬻ス、篡ヨリ亡ニ至ルマテ、改元スル者三ツ、曰ク、建國、天鳳、地皇、凡テ十五年、莽カ首ヲ傳テ、宛ニ至ル、更始、洛陽ニ都ス、父老司隸校尉ノ官屬ヲ見テ、或ハ涕ヲ垂テ曰ク、圖サリキ、今日復ク

漢官ノ威儀ヲ見ントハ更始將ヲ行ヒ先
 シトス、劉秀ヲシテ、司隸校尉ヲ行ヒ先
 ツ官ヲ整修セシム、秀乃チ官屬ヲ
 置ク、一ニ舊章ノ如シ、時ニ三輔ノ吏
 士、東ノ方ニ更始ヲ迎ヘ、諸將ノ過
 見ルニ、皆ハ憤ヲ冠シ、婦人ノ衣服
 ス、之ヲ笑ハサルナシ、司隸校尉ノ官
 屬ヲ見ニ、及テ皆ナク、自ラ勝ヘ
 ス、父老、或ハ涕ヲ垂テ曰ク、圖ラ
 日復ク漢官ノ威儀ヲ見ント
 ハ、是ヨリ識者皆ナク見ス
 元年、都ヲ長安ニ遷ス ○赤眉、長
 安ヲ攻ム、明年、赤眉入ル、更始出奔
 ス、已テ
 ニソ赤眉ニ降ル為メニ殺サル、立ヨ
 リ亡ニ至ル、凡テ三年前數月ニ大司
 馬秀、已テ河北ニ即位ス、是ヲ世祖

光武皇帝ト為ス

○東漢 東洛陽ニ都ス、故

世祖光武皇帝名ハ秀、字ハ文叔、長沙定

王發ノ後ナリ、景帝發ヲ生ム、發、春陵

ノ節侯買ヲ生ム、侯タル三世封ヲ徙

ノ南陽ノ白水郷ヲ以テ、春陵ト為ス

〔南陽〕郡、河南ニ屬ス、今ノ襄陽府、宗族

往テ家ス、熊渠、考侯仁ヲ生ム、南方ノ

車、從シ、宗族ト往テ家ス、仁卒シ、子敬

嗣ク、莽カ位ヲ篡買カ、少子ハ外、外、田

ヲ生ム、田、南頓ノ令、欽ヲ生ム、欽、秀ヲ

〔總〕未ノ秀ル貌
〔鬱〕蒸ノ其氣ノ堆
〔壘〕謂ノ上達スル
〔水〕謂ノ泉ノ白
〔分〕析ノ白ノ字
〔折〕ナス貨ノ字
〔隆〕準ノ眞人ト
〔角〕謂フノ鼻頭
〔起〕天庭ノ中骨
〔書〕謂フノ圖識
〔識〕語ノ如キ

南頓ニ生ム〔南頓〕邑、汝南ニ屬ス。○通
太守ト為ル外、鉅鹿ノ都尉、回ヲ生ム
嘉禾一莖九穗ノ瑞アリ、故ニ名ツク、
是ヨリ先キ、望氣ノ者アリ、春陵ヲ望
テ曰ク、氣佳ナル哉、鬱々然タリ、
王莽、貨ヲ改テ貨泉ト曰フ、人其字ヲ
以テ白水真人ト為ス、秀、竟ニ白水ヨ
リ起ル、隆準ニシテ日角アリ、尚書ヲ受
テ大義ニ通ス、嘗テ蔡少公ニ過ル、少
公、圖識ヲ學フ、言フ、劉秀、當サニ天子
ト為ルヘシト、或人曰ク、國師公劉秀

〔僕〕士庶自ラ稱
ノ、僕ト曰フ

〔我〕伯升ヲ殺ス言ハ
シ我ヲ殺ス敗レハ
シムルナリ

カト時ニ劉歆、名ヲ改メ、秀ト曰秀戲
テ曰ク、何ニ由テ僕ニ非サルヲ知ル
ヤト、新市平林ノ兵起ルニ及テ、南陽
騷動ス、宛人李通、秀ヲ迎テ兵ヲ起ス、
秀カ兄續、字ハ伯升、慷慨ニシテ大節ア
リ、常ニ憤々トシテ社稷ヲ復セント欲
ス、平居家人ノ生業ヲ莫トセス、資ヲ
傾テ、産ヲ破リ、天下ノ雄俊ニ交結ス、
是ニ至テ、親客ヲ分遣シ、諸縣ノ兵ヲ
發ス、續、自ラ春陵ノ子弟ヲ發ス、皆ナ
恐懼ノ亡匿ル、曰ク、伯升、我ヲ殺スト

級等ナリ、秦法ハ爵級ヲ賜フ、故ニ曰テ、斬首ヲ謂テ、級ト爲ス、中堅ト曰フ、兵最モ精銳ノ故

自ラ歩騎千餘ニ將トシ、前鋒ト爲ル、尋邑兵數千ヲ合戦セシム、秀之ヲ奔ラシム、首ヲ斬ル數十級、諸將ノ曰ク、劉將軍、平生ハ小敵ヲ見モ怯ル、今大敵ヲ見テ、慙ハ、甚ク怪ム、可キナリト、尋邑カ兵却ク、諸部共ニ之ニ乘ス、連ニ勝テ、遂ニ前ム、一百ニ當ラサルナシ、秀、敢死ノ者三千人ト、其ノ中堅ヲ衝ク、尋邑カ陣亂ル、漢ノ兵銳ニ乘メ、之ヲ崩ス、遂ニ尋ヲ昆陽ニ殺ス、城中守者モ亦鼓譟ノ出ツ、中外勢ヲ合

股戰足震、慄スルナリ、言笑平常ノ如シ

ス、呼聲天地ヲ動カス、莽カ兵大ニ潰ユ、走ル者相踐ム、伏屍百餘里、大雷風ニ會フ、屋瓦皆ナ飛フ、雨ノ下ル、注カ如シ、虎豹皆ナ股戰ス、涪川ニ溺死スル者萬數〔洪〕水、南陽ニ出、關中之中ヲ聞テ震恐ス、海内ノ豪傑、響應ノ皆ナ莽カ牧守ヲ殺シ、自ラ將軍ト稱シ、漢ノ年號ヲ用ユル、旬月ニシテ天下ニ徧シ、續カ兄弟威名日ニ盛ナリ、更始、續ヲ殺ス、秀、敢テ喪ヲ服セス、飲食言笑ス、惟枕席ニ涕泣スル處アリ、更始、慙テ

漢書卷之...

策ヲ杖テ杖ハ、
持ナリ、策ハ、馬
超ナリ、或人曰
ク、策ヲ杖ルト
言ハ、以テ持ト
スルハ、以テ持ト
示スルハ、以テ持ト
侯ニ封シ、爵ニ
拜ス、尺寸禹、謙
ノ尺寸禹、謙
短ヨリ言フ、竹
古ヨリ言フ、竹
以テ編シ、或ハ
帛ヲ用テ之ヲ
為ス、故ニ竹帛
ト曰フ

秀ヲ大將軍ニ拜シ、武信侯ニ封ス、未
タ幾ナラスシテ、秀ヲ以テ大司馬ノ
吏ヲ行ハシム、河北ヲ徇シム、過ル所
口、莽カ苛政ヲ除ク、南陽ノ鄧禹策ヲ
杖テ、秀ヲ追フテ、鄧禹ニ及フ、
前ノ南陽郡、秀曰ク、我レ封拜ヲ專ラ
ニ非ラス、秀曰ク、我レ封拜ヲ專ラ
ニスルヲ得タリ、生速ク来ル、寧口仕
ント欲スルカト、禹曰ク、願ハサルナ
リ、但願クハ、明公威徳、四海ニ加フレ
ハ、禹、其ノ尺寸ヲ效テ得テ、功名ヲ竹
帛ニ無ンノミ、更始ハ、常オナリ、帝王

足ヲナリ、中ニ
言フナリ、中ニ
止宿ス、中ハ、幕
中ヲ謂フ

ハ大業ナリ、任ル所ニ非ラス、明公、英
雄ヲ延攬シ、務テ民ノ心ヲ悅ハシム
ルニ如クハナシ、高祖ノ業ヲ立テ、万民
ノ命ヲ救ハ、天下ハ定ルニ足ラサ
ルナリト、秀、大ニ悅セ、禹ヲノ常ニ中
ニ止宿セシム、與ニ計議ヲ定ム、邯鄲
ノト者、王郎詐テ成帝ノ子子輿ト稱
シ、邯鄲ニ入テ帝ト稱ス、幽冀ヲ徇下
ス、幽州、北平ニ属ス、今ノ大興府州郡
響ノ應スルカ如シ、秀、北ノ方薊ヲ徇
フ、上谷ノ大守、耿况カ子、薊州、北平

卷之...

漢書卷之...

東漢光武帝 四十一

〔漸〕氷ノ解ルナ

漁陽 馳テ盧奴ニ至テ、上謁ス〔盧奴〕定
 郡 秀ノ曰ク、是レ我カ北道ノ主人ナ
 リト、薊城及ノ王郎ニ應ス、秀、薊ニ城
 ヲ出テ、晨夜ニ南ニ馳セ、燕薊亭ニ至
 ル〔燕薊亭〕深馮異〔馮異〕豆粥ヲ上ツル、饒陽
 州ニ至テ、食ニ乏シ〔饒陽〕縣、晋下曲陽ニ
 至ル〔下曲陽〕縣、保王郎カ兵、後ニ在リ
 ト聞テ、潯沱河ニ至ル〔潯沱河〕河水、代
 東流ノ易水ト合シ、文安縣ニ至テ、海
 ニ入ル、光武ノ渡ル處ハ、今ノ祁州ニ
 リア、候吏、還テ白ス、河水流漸ス、船
 ナク
 ンバ濟ル可ラスト〔候吏〕道路ノ迎送

光武潯沱河ヲ渡ル圖



ノ驛丞ナリ、秀、王霸ヲノ之ヲ視セシム、
 如キナリ、驚カサシテ、還リ即チ詭
 覇衆ヲ驚カサシテ、還リ即チ詭
 テ曰ク、氷堅ノ渡ル可シト、遂ニ前テ
 河ニ至ル、氷モ亦合フ、乃チ渡ル、未タ
 駢ラス數騎ニメ氷解ケヌ、南宮ニ至
 ル〔南宮〕縣、冀大風雨ニ遇フ、道傍ノ空
 舍ニ入ル、馮異薪ヲ抱テ、鄧禹火ヲ蒸
 ク、秀、竈ニ對メ衣ヲ燎ル、異復タ麥飯
 ヲ進ム、下博城ノ西ニ至ル〔下博城〕縣、
 ス惶惑ノ之ヲ所ヲ知ラス、白衣ノ老
 人アリ指テ白ク、努カセヨ信都、長安

〔城守〕長安ハ、更始ノ都スルハ、光、信都ニ任テ、更始命アリ

〔檄〕符檄ニ尺ノ書ナリ、輿地ニ象ル、故ニ輿地ト

ノ為メニ城守ス〔信都〕郡ノ名此ヲ去ル八十里ト、秀即チ馳テ之ニ赴ク、時ニ郡縣皆ナ己テニ王郎ニ降ル、獨信都ノ太守任光、和我ノ太守邳彤、肯セ〔和戎〕漢書、邳彤カ傳ニ、和戎郡トナス、沿ス、未タ詳ナラズ光、秀カ至ヲ聞テ、大ニ喜ヒ出ツ、彤モ亦来リ會ス、傍縣ノ精兵ヲ得テ、檄ヲ移ノ王郎ヲ討ス、郡縣還テ、復夕響應ス、秀、兵ヲ引テ、廣阿ヲ拔ク〔廣阿〕鉅鹿ニ屬ス輿地ノ圖ヲ披キ、鄧禹ニ指シ示シ曰ク、天下ノ郡縣、是ノ如シ、今

〔反側〕子云々、反側子ハ、王郎ト交通シ、將ヲ安シ、自ラ安セシメ、ナリ者ヲ謂フ

始テ其一ヲ得タリ、子前ニ言フ、定ルニ足スト、何ソヤ、禹カ曰ク、方今海内〔殺讎〕ノ人、明君ヲ思フ、猶ヲ赤子ノ慈母ヲ慕ガコトシ、古ノ興ル者ハ、徳ノ厚薄ニアリ、大小ニ在ラサルナリト、耿弇、上谷、漢陽ノ兵ヲ以テ、行郡縣ヲ定ム、秀ニ廣阿ニ會ス、進テ邯鄲ヲ拔テ、王郎ヲ斬ル、吏民ノ郎ト交ル書數千章ヲ得タリ、秀、諸將ヲ會ノ之ヲ燒テ曰ク、反側子ヲ自ラ安セシメ、願ト、秀、吏卒ヲ部分スレハ、皆ナ言フ、願

代功ニ誇ス代ト言フ

クハ大樹將軍ニ属セント、馮異ヲ謂フナリ、人ト為リ謙遜ニシテ代ラス、諸將功ヲ論スルコトニ、異常ニ獨樹下ニ屏ク、故ニ此ノ號アリ、更始使ヲ遣シ、秀ヲ立テ、蕭王ト為シ、兵ヲ罷シ、耿弇王ニ説ク、辭スルニ河北未タ平カサルヲ以テス、徵ニ就カス、更始アル、此ニ王、銅馬當時ノ諸賊ヲ撃ツ、悉ク破テ之ヲ降ス、諸將未タ降者ヲ信セス、降者モ亦自ラ安セス、王敕メ各營ニ歸テ、兵ヲ勒セシム、自ラ輕騎

勒抑ナリ

輕騎輕ハ、輕疾ナリ

ニ乘シ、諸部ヲ案行ス、降者相語テ曰ク、蕭王、赤心ヲ推テ人ヲ腹中ニ置ク、安ソ死ヲ效サ、ルヲ得ンヤト、悉ク以テ諸將ヲ分配シ、南ノ方、河内ヲ徇ス、河内ノ郡、河東ニ属ス、今ノ懷孟府、赤眉、西ノ方、長安ヲ攻ム、王、將軍鄧禹等カ兵ヲノ、關ニ入ラシム、禹、寇恂ヲ薦シ、文武備具シ、民ヲ牧シ、衆ヲ御スルノ才アリト、河内ヲ守ラシム、王、自ラ兵ヲ引テ、燕趙ヲ徇ヘ、尤来大槍亦當時ノ賊等ノ諸賊ヲ撃チ、盡ク之ヲ破ル、王、還テ中山

赤伏符識緯ノ
書ヲ符ト曰フ
赤伏ハ其符ノ
名一尚フ漢徳
火ヲ尚フ赤ハ
火色伏ハ藏ナ
リ此レ河圖ノ
文龍野ニ開フ
易坤卦上六龍
野ニ戰ス象ニ
曰ク龍野ニ戰
ス其ノ道窮ル
ナリ主ト為ス
己上ノ三句並
ニ符文ナリ四
七ハ四七ニ十
八ハ武初起ヨ
リ光武起ヨリ
至ル合テ二百
ニ主ト為スリ
漢ハ火徳ナリ

至ル中山府河諸將尊號ヲ上ツル
許サス南平棘ニ至ル南平棘縣越固
ク請フ又許サス耿純カ曰ク士大夫
親戚ヲ捐テ土壤ヲ棄テ大王ニ矢石
ノ間ニ從ス固ヨリ龍鱗ヲ攀チ鳳翼
ニ附テ以テ其ノ志ス成テ成シテ望
ノミ今時ヲ留テ衆ニ逆ス恐クハ望
絶ヘ計窮ラハ則チ去歸ノ思アラズ
大衆一タヒ散セハ復タ合ス可キ難
シト馮異モ亦言フ宜ク衆議ニ從フ
ヘシト會儒生強華関中ヨリ赤伏符

言ハ光武當升
シ此ニ起ルハ
二一八歳ヲ以
テ兵ヲ起ス故
際ト又ニ十七
將亦四七ノ數
ニ應ス
徒跣歩行ヲ徒
ト曰フ赤足ヲ
緒汗赭ハ赤ナ
リ面赤ノ汗流
ル惶懼ノ意一
汚説ニ作ル當
シ

ヲ奉シ來ル曰ク劉秀兵ヲ發シ不道
ヲ捕フ四夷雲ノ如ク集リ龍野ニ鬪
フ四七ノ際火ヲ主ト為スト群臣曰
テ復請フ乃チ皇帝ノ位ニ鄒南ニ即
グ鄒南邑定州ニ屬ス光建武ト改元
ス○赤眉樊崇等宗室劉盆子ヲ立テ
帝ト為ス劉盆子齊王肥ノ後年十
五時ニ軍中ニ在リ羊ヲ牧スルヲ主
ト被髮徒跣シ敝衣赭汗衆ノ拜ス
ルヲ見テ恐懼シテ啼カント欲ス○
賊長安ニ入ル更始走ル帝詔ヲ下ノ

東隅早ヲ謂ル
ナリ日ノ出ル
必ス東隅ナリ
ス隅ハ角ナリ
桑榆皆ナホ
名太白ハ西方
法當ツ六日
參スヘシ天ニ
尚ラ桑榆ノ間
晚アリ桑榆ハ
淮南子曰ス
西日景ヲ垂テ
樹端ニ在ルテ
之餘象尚ヲ十
フ餘人虎口危
ナリ錚錚ハ
金言ナリ剛利
微ニ剛利ア

池ニ奮ス之ヲ東隅ニ失ノ之ヲ桑榆
ニ收ムト謂フヘシト赤眉ノ餘衆東
ノ方宜陽ニ向フ上軍ヲ勒ソ之ヲ待
ツ樊崇劉盆子丞相徐宣等ヲ以テ肉
袒ノ降ル上軍馬ヲ陣シ盆子ノ君臣
ヲソ之ヲ觀セシム謂テ曰ク降ヲ悔
ルナキヲ得ンヤト宣叩頭ノ曰ク虎
口ヲ去テ慈母ニ歸スト誠歡誠喜限
リナシ上ノ曰ク卿ハ謂ユル鐵中ノ
鐵々備中ノ伎々タルナリト各田宅
ヲ賜フ○睢陽ノ人劉永ヲ斬リ降ル

ル者ヲ好キ教
々々ハ言フハ
伎ヲト言フハ
凡レ備ト人稍
レリ一説ニ為
リ一通ノ備作
ト中ノ狡猾ナ
ル者ヲ謂フナ
リ突騎其驍銳
以テ敵ヲ人謂
突スルヲ人謂
遼東豕言ハ寵
ナシ功衆ニ優
ル

劉永更始ノ時ニ在テ立テ梁王ト為
ル更始亡テ永帝ト稱ス是ニ至テ敗
ル○漁陽ノ太守彭寵カ淑寵ヲ斬テ
以テ降ル初メ上王郎ヲ討スルトキ
寵突騎ヲ發シ以テ軍ヲ助ク粮ヲ轉
ノ絶ス自ラ其功ヲ冀テ意望甚ク高
ノ満ル能ハス幽州ノ牧朱浮書ヲ與
テ曰ク遼東ニ豕アリ子ヲ生ム白頭
ナリ將サニ之ヲ獻セントス道ニノ
群豕ニ遇フ皆ナ白シ子ノ功ヲ以テ
朝廷ニ論セハ遼東ノ豕ナランナリ

〔大策〕建武三年
〔弁〕自齊平
〔フ〕ナリ、説、通鑑
〔ニ〕見ユ〔落落〕磔
〔ト〕同、石堅
〔合〕ハサル貌

ト、上寵ヲ徴ス、寵自ラ疑テ遂ニ反ス、
是ニ至テ敗ス。○劉永カ立ツル所ノ
齊王張步降ス、上、初メ歩ヲ以テ東萊
ノ太守ト為ス〔東萊〕郡、山東ニ已テニ
ノ永ノ命ヲ受ケ齊ニ王夕リ、將軍耿
弇屢戰テ大ニ之ヲ破リ、祝阿、齊南臨
淄ヲ拔ク〔祝阿〕縣、平原郡ニ屬ス、車駕
臨淄ニ至テ、軍ヲ勞フ、弇ニ謂テ曰ク、
將軍前ニ南陽ニ在テ、此ノ大策ヲ建
ツ、嘗テ以為ラク、落落トノ合ヒ難シ、
志アル者ハ、竟ニ成ルナリト、歩、敗

ル、齊ノ地悉ク平ク。○將軍吳漢等擊
テ劉永カ立ル所ノ海西王董憲及ヒ
叛將龐參等ヲ斬ル帝嘗テ前ト蓋延
フ擊クハ、會、詔延ニ下ノ、前江淮山
東悉ク平ク、時ニ惟隗囂公孫述未ク
平カス、上、苦ヲ兵間ニ積ム、諸將ニ謂
テ曰ク、且ラク當サニ此ノ兩子ヲノ
度外ニ置クヘキノミト因テ、諸將、
士ヲ河内ニ分チ、數書ヲ臨蜀ニ騰シ、
禍福ヲ告示ス、帝述ニ書ヲ與フルニ
曰ク、君ハ吾カ亂臣賊子ニ非ラス、倉
卒ノ時、人皆ナシ、君カ力ヲ為シ、
ク三思スヘシト、署ノ公孫皇帝ト曰

荆棘皆ナ 愚木
ノ名紛亂ニ 喻
フトリ 倉卒ニ 急
遷ノ 貌 薊ヨリ
南ニ 馳スルノ
時ヲ 指ス

騰ハ述、答セス。○馮異、長安ヨリ入朝
ス、上、公卿ニ謂テ曰ク、是レ我カ兵ヲ
起ス時ノ主簿ナリ、吾カ為メニ荆棘
ヲ披キ、関中ヲ定ムト〔主簿〕官、簿書詔
ノ異ヲ勞ス曰ク、倉卒燕萋亭ノ豆粥
溲沱河ノ麥飯、厚意久ク報セスト。○
建武八年、上、自ラ將トノ、隗囂ヲ征ス、
潁川盜起ル、上、還テ執金吾、寇恂ニ謂
テ曰ク、潁川京師ニ迫近ナリ、當サニ
時ヲ以テ定ムヘシ、獨リ卿能ク之ヲ
平ケンノミ、九卿ヨリ復出テ、以テ國

可ナラシカハ
猶ヲ可カト言
フコトキナリ

ヲ憂ハ可ナラシカト時ニ、寇恂、執金
ニ非ラスト雖モ、卿ニ倍スナリ。○是
ヨリ朱キ、恂、潁川ノ太守ト為ル、既ニ
能ク亂ヲ平ケ、故ニ陶ヲ復出テ、恂
潁川ノ群盜ヲ平ケシムルナリ。恂
上ヲ勸テ親ラ征セシム、賊悉ク降ス、
恂、竟ニ郡ニ拜セス、百姓道ニ遮テ曰
ク、願クハ寇君ヲ借ル、一年セント、乃
チ恂ヲ留テ鎮撫セシム、大軍戰ハス
ノ還ル。○建武九年、隗囂死ス、囂更始
ノ初年ヨリ、兵ヲ起シ、建武ノ初ニ至
リ、天水ニ據リ、自ラ西州ノ上將軍ト
稱ス〔天水〕郡名、後、嘗テ馬援ヲノ、成都

邊幅邊縁ヲ謂
 フナリ、布帛ノ
 其ノ邊幅ヲ修
 飾スル若キハ
 謂フナリ、言ハ
 述外飾ヲ務テ
 其實ナキナリ
 哺ヲ吐ク、周公
 ノ夏井底蛙志
 識ノ褊狹ナル
 坎井ノ蛙ノ如
 キヲ言フ、莊子
 ニ曰ク、井ノ蛙
 以テ海ヲ語ル
 可テサルハ、虚
 ニ拘ルナリ

ニ往テ、公孫述ヲ觀セシム、援述ト舊
 アリ、當サニ手ヲ握テ、歡平生ノ如ク
 スヘシト謂フ、時ニ述、已テニ帝ト稱
 スル四年ナリ、援、既ニ至ル、盛ニ陸
 ヲ陳シ、以テ援ヲ延ク、援、其ノ属ニ謂
 テ曰ク、天下ノ雌雄未ク定ラス、公孫
 哺ヲ吐テ、國士ヲ迎ヘス、反テ邊幅ヲ
 修飾シ、偶人ノ形ノ如ク、此レ何ソ久
 ク天下ノ士ヲ稽ルニ足ンヤト、曰テ
 辭ノ歸ル、器ニ謂テ曰ク、子陽ハ、井底
 ノ蛙ノミ、而レ氏妄ニ自ラ尊大ナリ

意ヲ東方ニ專ニセシム、如カスト、器
 乃チ援ヲ書テ、雒陽ニ奉セシム、初
 メ到ル、良久、即引入ル、上殿廡ノ下ヨ
 リ岸幘ノ迎ヘ、笑テ曰ク、卿、二帝ノ間
 遊遊ス、今卿ヲ見ル、人ヲノ大ニ慚シ
 ムト（二帝）謂フ、援頓首ノ曰ク、當今
 ハ但君ノ臣ヲ擇ノミニ非ラス、臣モ
 亦君ヲ擇フ、臣、公孫述ト同縣ナリ、少
 ノ相善シ、臣前ニ蜀ニ至ル、述、陸戰
 而ノ後ニ臣ヲ進ム、臣、今遠ク来ル、陸
 下何ノ刺客姦人ニ非サルヲ知テ、簡

意ヲ東方ニ專ニセシム、如カスト、器
 乃チ援ヲ書テ、雒陽ニ奉セシム、初
 メ到ル、良久、即引入ル、上殿廡ノ下ヨ
 リ岸幘ノ迎ヘ、笑テ曰ク、卿、二帝ノ間
 遊遊ス、今卿ヲ見ル、人ヲノ大ニ慚シ
 ムト（二帝）謂フ、援頓首ノ曰ク、當今
 ハ但君ノ臣ヲ擇ノミニ非ラス、臣モ
 亦君ヲ擇フ、臣、公孫述ト同縣ナリ、少
 ノ相善シ、臣前ニ蜀ニ至ル、述、陸戰
 而ノ後ニ臣ヲ進ム、臣、今遠ク来ル、陸
 下何ノ刺客姦人ニ非サルヲ知テ、簡

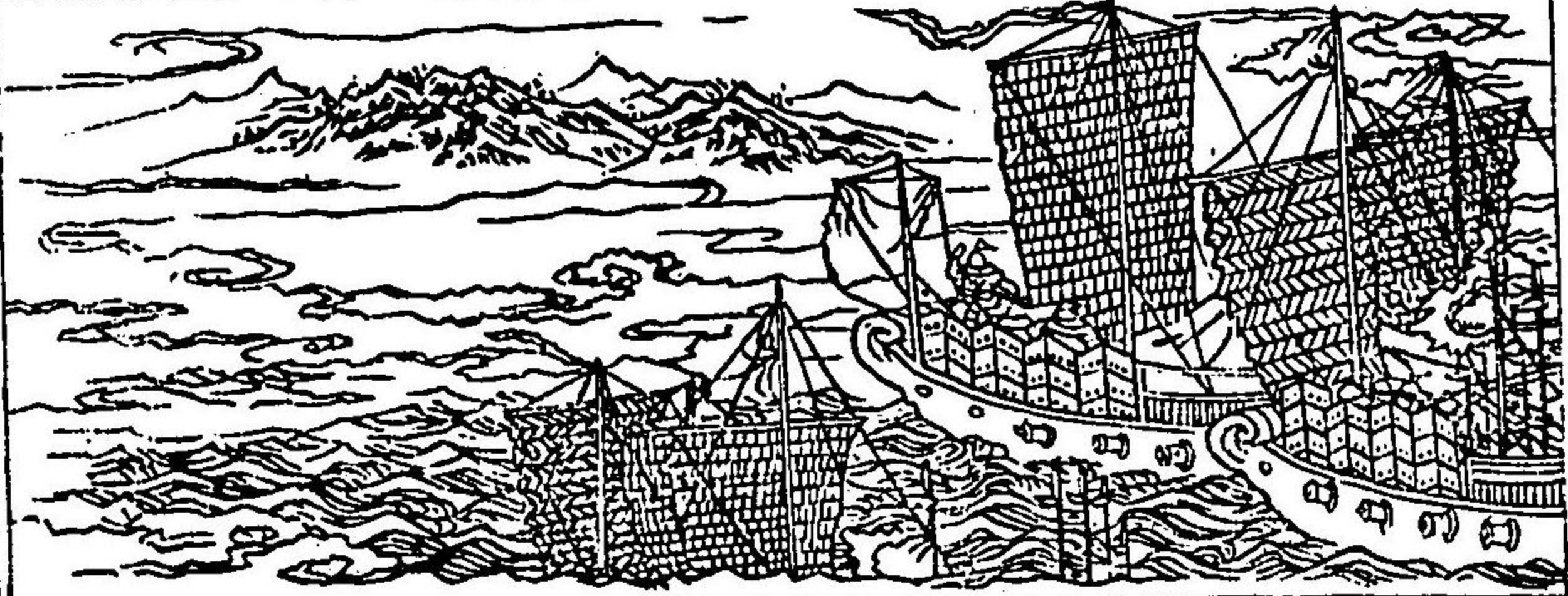
名字ヲ盜ハ帝位
號ヲ僭竊ノ帝
ト稱シ王ト稱
スルヲ謂フナ
リ帝王ノ自ラ
真光武ヲ指テ
言フ東方ノ吏
光武ノ吏

易ナル是ノ若クナルト、帝笑テ曰ク、
卿ハ刺客ニ非ラス、顧ニ説客ナラン
ノミト、接曰ク、天下反覆ノ名字ヲ盜
ム者、勝テ數可ラス、今陛下ヲ見ニ、恢
廓大度、符ヲ高祖ニ同ス、乃チ知ル、帝
王ノ自ラ真アルヲ云ナリト、接歸ル、
囂、東方ノ吏ヲ問フ、接カ曰ク、上、才明
勇略、人ノ敵ニ非サルナリ、且ツ心ヲ
開キ、誠ヲ見ルニ、隱伏スル所ナシ、關
達ニノ大節多シ、略高祖ト同シ、經學
博覽ニノ、政吏文辯、前世比ナシト、囂

如カナルナリ
言ハ、光武ノ賢
高祖ニ及ハサ
ルナリ、可ハサ
ナシ、是非ノ言
フ可キナキヲ
言フナリ、復勝
反テ更ニ高帝
ニ勝レリ、入侍
實ナリ、之ヲ諷
見ユ、詳ニ通鑿ニ

曰ク、卿謂フ、高帝ニ何如シ、接曰ク、如
サルナリ、高帝ハ可モナク、不可モナ
シ、今上、吏吏ヲ好ミ、動スレハ法度ノ
如クス、又飲酒ヲ喜マスト、囂、懌ヒス
ノ曰ク、卿カ言ノ如シハ、反テ復勝レ
ルカト、子ヲソ入テ侍セシム、
ク幾ナラスノ反ス、復嘗テ班彪ニ問
フニ、戰國從横ノ吏ヲ以テス、彪、王命
論ヲ作テ之ヲ諷ス、囂、聽カス、接、初
ニ貳セント欲スルヲ聞テ、數書ヲ以
テ之ヲ責譬ス、囂、書ヲ得テ、輒チ怒テ
聽カス、是ニ至、馬援、行在ニ詰ル、上復
テ、遂ニ去ル

岑彭戰船ヲ裝フ圖



ク游説セシム、仍テ自ラ囂ニ書ヲ賜
 フ、囂竟ニ公孫述ニ臣タリ、述、囂ヲ立
 テ、朔寧王ト為ス、上、囂ヲ征ス、馬援
 上ノ前ニ在テ、米ヲ聚テ山ト為シ、形
 勢ヲ指畫シ、軍ノ從フ所ノ徑道ヲ開
 示ス、上ノ曰ク、虜、吾カ目中ニ在リト、
 遂ニ軍ヲ進ム、囂、西域ニ奔ル〔西域〕清
 リ、餓ヲ病ニ患憤ノ卒ス、子純降ス、隴
 右悉ク平ク、十二年、公孫述亡ク、述
 ハ、茂陵ノ人、更始カ時ヨリ、蜀ニ擲テ
 帝ト稱ス、國ヲ成ト號ス、上、既ニ隴右

重ト為ル言ハ、
 支權盡ク當サ
 ニ重キヲ彭ニ
 歸スヘシ

ヲ平ケテ曰ク、人、自足セサルヲ苦ム、
 既ニ隴ヲ得テ、復タ蜀ヲ望ムト、大司
 馬ノ吳漢等ヲ遣ハシ、兵ヲ將テ、征南
 大將軍岑彭ニ會シ、蜀ヲ伐クシム、彭、
 荆門ニ在リ〔荆門〕州、湖戰船ヲ裝フ、漢
 之ヲ罷ント欲ス、彭、可カス、上書ノ狀
 ヲ言フ、上、彭ニ報ソ曰ク、大司馬步騎
 ヲ用エルニ習テ、水戰ヲ曉ラヌ、荆門
 ノ支、一ニ惟征南公ヲ重ト為ルノミ
 ト、彭、戰船並ヒ進ム、向フ所、岷口前ムナ
 シ、述、盜ヲノ彭ヲ刺殺サシム、吳漢繼

卷七 郡ノ計釋上
見ユ

テ進ム、成都ニ至テ、撃テ述ヲ殺ス、蜀
 地悉ク平ク。○涼州ノ牧、竇融涼州屬
 ス、即チ河西武威、張掖、酒泉、燉煌、金城
 五郡ノ太守率テ入朝ス。五郡武威、酒
上卷見ユ張掖、甘肅屬ス、今ノ沙州
 融、建武ノ初ヨリ、河西ニ據ル、後使ヲ
 ノ書ヲ奉セシム、上、以テ牧ト為ス、璽
 書ヲ賜テ曰ク、議者必ス任器カ尉佗
 ヲ教テ、七郡ヲ制スルノ計アラント、
 書至ル趙佗、秦ノ時、南海、龍川ノ令ト
死ナントス、佗ヲ召ヒ計ヲ教ヘ、南海
尉ノ吏ヲ行ハシム、嘗テ自ラ玉ヲ僭

○通鑿ニ器融
 説テ曰ク、今
 各土宇ニ合
 リ、隨蜀ト
 リ、高ハ六國
 為ムヘシ、下
 ハ尉佗失ハ

ノ、叛ニ服セシ、高祖封ノ、南越王、河西
 ト為ス、遂ニ約ヲ奉ヌルナリ、河西
 皆ナ驚ク、以為ラク天子、明萬里ノ外
 ヲ見ルト、上、隗囂ヲ征ス、融、五郡ノ兵
 ヲ率ユ、大軍會蜀平、詔ヲ奉メ、朝ニ歸
 ル、冀州ノ牧ニ拜セラレ、○十八年、代
 王盧芳、匈奴ニ死ス、芳ハ安定ノ人、安定
縣延安屬ス詐テ、武帝ノ曾孫劉文伯ト稱
 ス、建武ノ初ヨリ、安定ニ據ル、匈奴之
 ヲ迎フ、立テ漢帝ト為ス、數邊郡ノ寇
 患ヲ為ス、後來降ス、代ニ王タリ、復反
 ノ匈奴ニ奔ル、病ヲ以テ死ス、○二十

條ヲ頌ツ條例
ヲ頌チ降スナ
二名ナシ時ニ
莽中國ニ兩字
ノ名ヲ用ユル
ヲ禁ス

二年、匈奴和親ヲ求ム、上使ヲ遣シ、之
ヲ許ス、呼韓邪單于、成帝ノ時ニ死セ
シヨリ、其ノ後、累世、皆ナ漢ニ仕フ、平
帝ノ時、王莽、條ヲ匈奴ニ頌テ、謂ク、中
國ニ二名ナシト、單于ヲ諷シ、名ヲ改
ム、單于、故ノ名ハ囊知牙
漢、賜フ所ノ單于ノ璽ヲ歛テ、章ト曰
フ、單于怨恨ノ數邊ニ寇ス、故ノ印文
于ノ璽ト曰フ、莽、更テ新匈奴單于ノ
章ト曰フ、漢、單于ニ印ヲ賜フテ、璽ト
曰フ、章ト曰フ、又漢ノ字ナシ諸王
以下ハ、乃チ章ト曰フ、又漢ノ字アリ、
今莽、璽ヲ改テ、章ト曰フ、又新匈奴
如フ、其ノ臣下ト別ナシ、故ニ新匈奴單于怨

都護ヲ請フ漢
ノ都護シ、出テ
之ヲ鎮スルヲ
請フ

建武以來、匈奴盧芳ヲ助ケ、漢ニ寇
ス、後、又數烏桓、鮮卑ト兵ヲ連テ入寇
ス、烏桓國、東夷ニ屬ス是ニ至テ、始テ
和ヲ請フ、○西域都護ヲ請フ、許サス、
遂ニ匈奴ニ附ク、是ヨリ先キ、莎車王
賢、鄯善王安、皆ナ使ヲ遣シ、奉獻ス、鄯善國、西域ニアリ、鄯賢カ使、再ヒ至ル、上
賢ニ都護ノ印綬ヲ賜フ、邊郡ノ守、上
言ス、假ニ大權ヲ以テス可ラスト、詔
ノ收ノ還ス、更ニ大將軍ノ印ヲ賜フ、
賢恨ニ猶ヲ詐テ大都護ト稱ス、諸國

十八國未夕詳ナラス

悉ク賢ニ服屬ス、賢驕横ニシテ、西域ヲ兼弁セント欲ス、諸國懼ル、凡テ十八國子ヲ遣シ入侍セシム、願クハ漢ノ都護ヲ得ント、上、厚ク賜テ、其ノ侍子ヲ還ラシム、是ニ至テ、復請フ、上復タ之ヲ却ク、二十四年、匈奴南邊ノ八部、日逐王比ヲ立テ、南單于ト為ス、漢塞ヲ款テ内附ス、是ニ於テ、分テ南、北匈奴ト為ス、○二十五年、貊人鮮卑、烏桓並ニ入朝ス、〔貊〕國、東夷ニアリ、○二十六年、南單于ノ庭ヲ立ツ、是ノ時、中郎將段郴、副校尉王

〔領〕猶ヲ衛護トナリ

都ヲ遣リ、南單于ヲノ、其ノ庭ヲ立テシム、五原西部ノ塞ヲ去ル、八十里、南單于ヲ徙メ、西河、美稷ニ居ラシム、〔西河〕郡、山西ニ屬ス、今ノ汾州、美稷、共ニ屬城ノ名、使匈奴中郎將ヲ置テ、以テ之ヲ領セシム、〔使匈奴〕中郎將、官名、一人、二千石ニ比ス、南單于ヲ主トル、南匈奴、北匈奴ト戰フ、利アラス、乃チ南單于ニ部ヲ、西河、美稷ニ徙リ居ラシム、回テ中郎將段郴ヲ、西河ニ留テ、之ヲ衛護セシム、○二十七年、北匈奴亦使ヲ遣シ、和親ヲ求ム、明年、又請フ、之ヲ許ス、○中元二年、上崩ス、上、兵ヲ起セシ時、年二十六、即位ノ年三十、〔五倫〕〔第五〕姓、詔書ヲ讀ムコトニ、歎メ

等畫度ヲ記ス
 ルナリ方國四
 方王侯ノ國ナ
 リ〔札〕簡札ハ
 擲ナリ之ヲ編
 ム〔擲〕齒ノ相比
 天ノ如キナリ〔幸〕
 至ル所ノ車駕ノ
 以テ倅幸ト曰
 ス故ニ幸ト曰
 フナリ〔諸母〕
 叔母ヲ〔諸母〕
 曰フ〔歎〕曲ヲ
 ノ類一歎曲ト
 曲ヲ歎曲ト
 柔正直ニ直
 柔ナリ直ニ直
 ナリ直ニ直ニ直

曰ク、此レ聖主ナリ、二夕ヒ見テ、決セ
 ント武見ルヲ得テ、未ク曾テ光
 一見ノ政道ヲ論説スルヲ得ハ、則チ
 聖主明決、必ス吾カ吏ヲ用ヒント、後
 果ノ如シ〔手書〕方國ニ賜フニ、一札
 十行、細書ノ文ヲ成ス、政體ヲ明慎シ、
 權綱ヲ總攬シ、時ヲ量リ、カヲ度リ、舉
 トノ過夏ナシ、嘗テ南陽ニ幸ス、置酒
 ノ、宗室ヲ會ス、諸母相與ニ語テ曰ク、
 文秘平日人ト歎曲〔歎曲〕セス、惟直柔ナル
 ノミ、乃チ能ク此ノ如シト、上之ヲ聞
 テ笑テ曰ク、吾カ天下ヲ理ルモ、亦柔

抵手ヲ側テ、
 擊ツナリ〔苞〕
 記木叢生スレ
 ハ、則チ其ノ本
 固シ、故ニ篇ニ
 名ツク

道ヲ以テ之ヲ行ハント欲スト、上、兵
 間ニ在テ、久ク武夏ヲ厭フ、蜀平テ、後
 ハ警急ニ非サレハ、未タ嘗テ軍旅ヲ
 言ハス、北匈奴衰困ス、滅〔滅〕官馬武、上書
 ノ攻テ之ヲ滅サント請フ、劍ヲ鳴シ
 掌〔抵〕テ、志ヲ伊吾ノ北ニ馳ス〔伊吾〕
 州、晋昌縣ノ上、書ヲ報ノ告ルニ、黃石
 北ニアリ、公ノ苞桑記ヲ以テス、曰ク、柔能ク剛
 ニ勝ツ、弱能ク強ニ勝ツト、是ヨリ、諸
 侯敢テ兵ヲ言フナシ、玉門關ヲ閉〔玉門關〕ツ
 府ノ壽昌縣ノ西北ニアリ、西域ヲ

謝絶シ、功臣ヲ保全シ復任スルニ兵
 吏ヲ以テセス、皆ナ列侯ヲ以テ第ニ
 就カシム、吏吏ヲ以テ三公ヲ責ム三公
 大尉、司空亦夕功臣ヲ以テ吏吏ニ任セ
 徒、諸將皆ナ功名ヲ以テ、自ラ終フ、祭
 導、先ニ死ス上之ヲ念テ已マス帝每
 ノ曰ク、安ソノ國ヲ憂テ公ヲ奉スル
 祭、征虜ノ如キ者ヲ得ルカト、衛尉、姚
 期、曰ク、陛下ハ至仁、祭導ヲ哀念ノ已止
 ム、来歙、岑彭、鋒、鏞ニ死ス之ヲ恤ル甚
 厚シ、吳漢、賈復、帝ノ世ニ終フ、漢軍ニ
 在テ、或ハ戦ヒ利アラス、臣、意氣自若

鏞矢鏃

隱、殷ト通ス、敵國
 ナリ、言ハ一盛人
 ノ威重、殷盛ナ
 ル、一敵國ノカ
 ス、可ラサルカ
 如シ、千里ニ折
 衝ヲハ、兵車ナ
 リ、敵ノ軍ヲ衝
 リ、破ノ能ク之ヲ
 突、破スルユヘ
 陷、破スル言ハ、賈
 シ、ナリ、言ハ、甚
 替、カナリ、言ハ、甚
 欲、我ヲ攻メ、ト
 其、ノ外ニ車ヲ折
 ノ、敢テ来ラサ
 ラ、シムルナリ

ナリ、上、歎メ曰ク、吳公差人意ヲ強ス、
 隱、タル一敵國ノ若シト、師ヲ出スコ
 トニ、朝ニ詔ヲ受テ、夕ニ道ニ就ク、卒
 スルニ及テ、上臨テ言ント欲スル所
 ヲ問フ、漢カ曰ク、臣愚願クハ陛下慎
 テ、赦スルナカラシメ、唐ノ太宗ハ、
 小人ノ幸ニシテ、君子ノ不幸ナリ、一
 ニ再ヒ赦スレハ、善人ノ害ス、有罪ノ
 莠ヲ赦セハ、良善ヲ賊フ、故ニ朕、即
 ヲ来、數テ、輕ク憲章ヲ犯サルハ、小
 ナリ、復兵ヲ起ス時ヨリ、督ト為ル督
 軍旅ヲ主トシ、上ノ曰ク、賈督衝ヲ千

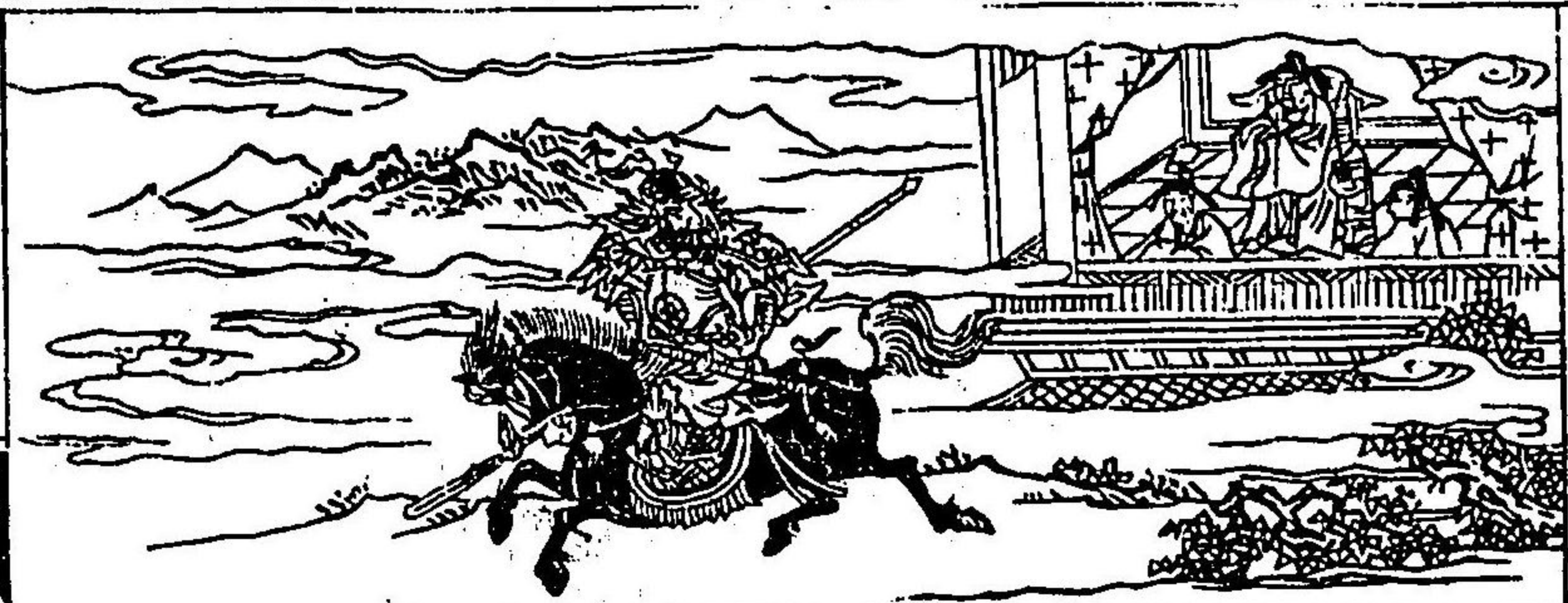
東漢光武帝 五七

又輕健ノ貌

里ニ折クノ威アリト、嘗テ戰テ傷ヲ
 被ル、上驚テ曰ク、吾レ嘗テ其敵ヲ輕
 スルヲ戒ム、果ノ然リ、吾カ名將ヲ失
 フ、其ノ婦孕アリト聞ク、子ヲ生シカ、
 我カ女之ニ嫁セシメン、女ヲ生シカ、
 我カ子之ヲ娶ラシメント、其ノ群臣
 ヲ撫スル、毎ニ此ノ如シ、惟馬援死ス
 ルノ日、恩意頗ル終ヘス、援嘗ニ曰ク、
 大丈夫ハ、當サニ馬革囊ヲ以テ、屍ヲ
 裹ムヘシ、安ソ能ク兒女子ノ手ニ死
 セント

尚本傳、援カ曰ク、方今匈奴烏桓
 北邊ヲ擾ル、自ラ請テ之

馬援鞍ニ據ル圖



ヲ擊ント欲ス、男兒要ス、當サニ邊野
 ニ死シ、馬革ヲ以テ、屍ヲ裹ムヘシ、
 ムルヘシ、安ソ能ク兒女子ノ手ニ死
 ノ兒女子ノ手ニ死センヤト

趾反ス、援、伏波將軍ヲ以テ、之ヲ討平
 ス、伏波將軍、援カ辭名、伏波ハ、船、江
 ノ上ヲ行ク、漢ノ武帝南越ヲ征シ、始
 テ此ノ後、漢ノ馬援、武陵蠻夷反ス、
 為ス、亦之ニ為ル、常德州、周、援、又行
 廣、蠻ノ居ル所トナス、武陵蠻夷反ス、
 蠻、蠻ノ居ル所トナス、武陵蠻夷反ス、
 請フ、帝、其老タルヲ憇ム、援、甲ヲ被リ、
 馬ニ上リ、鞍ニ據テ、顧眄シ、以テ用ユ
 ヘキヲ示ス、上、笑テ曰ク、矍鑠タル哉
 是ノ翁ト、乃チ之ヲ遣ル、是ヨリ先キ

候省問ナリ
議論ハレナリ
ルノミ、人ノ長
短、我カ當サニ
議論スヘキハ
分ヲ安スルニ
ミ、國ニ政法
リ、我カ當サニ
是非スヘキハ
是非ラス

上ノ壻梁松嘗テ援ヲ候ノ林下ニ拜
ス、援自ラ父ノ友ナルヲ以テ答セス、
松不平ナリ、援交趾ニ在リ、嘗テ書ヲ
遺テ、其兄ノ子ヲ戒ム、兄ノ子馬曰ク、
吾レ汝カ贊人ノ過ヲ聞ク、父母ノ名
ヲ聞クカ如クセンヲ欲ス、耳ニハ聞
ク可シ、口ニハ言フ可ラス、好テ人ノ
長短ヲ議論シ、政法ヲ是非スル、子孫
此ノ行アラシク願ハサルナリ、龍伯
高ハ敦厚周慎ニシテ、謙約節儉ナリ、吾
レ之ヲ愛シ、之ヲ重ニス、願クハ汝カ

效學ナリ

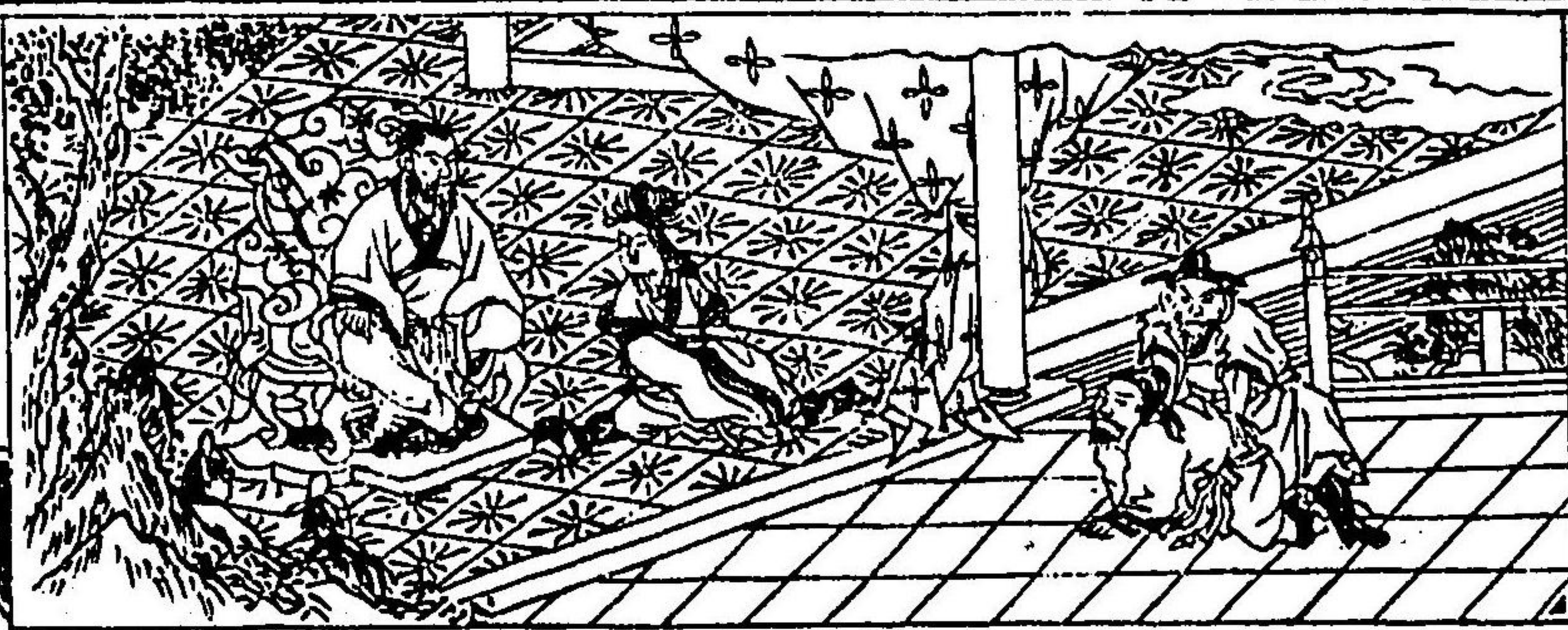
鷺鳧ノ属

曹之ヲ效ヘ、杜季良ハ豪俠ニシテ義ヲ
好ム、人ノ憂ヲ憂ヘ、人ノ樂ヲ樂ム、父
ノ喪ニ客ヲ致ス、數郡畢ク至ル、吾レ
之ヲ愛シ、之ヲ重ニス、汝カ曹ノ之ニ
效ヲ願ハサルナリ、伯高ニ效テ得ス
ンハ、猶ヲ謹教ノ士ト為ラン、謂ユル
鷺ヲ效テ成ラス、尚ヲ鷺ニ類スルナ
リ、季良ニ效テ得スンハ、陷テ天下ノ
輕薄子ト為ラン、謂ユル虎ヲ畫テ、成
ラス、反テ狗ニ類スルナリ、季良ハ杜
保ナリ、杜保名保カ仇人上書ノ、保ヲ

蒼頭、奴ヲ、蒼頭
ト曰フ、格殺器
械ヲ用ヒス、
白手之ヲ殺ス、
ナリ、〔搦〕蒼柱ナ
能ハサルヲ以
テナリ、故ニ之
ヲ詰テ、強項令
ト曰フ、〔附〕枝一
ニハ寄生ト名
ソク一ニハ寓
ホト名ツク、政
治節ナラサレ
ハ則附枝生ス
〔兩〕岐旁ニ出ル
ヲ岐ト曰フ、一
莖兩穂ヲ謂フ

スト、上、主ヲ顧テ曰ク、吏諧ハスト、主
ノ蒼頭、人ヲ殺ノ、主ノ家ニ匿ル者ア
リ、吏得ル能ハス、洛陽ノ令、董宣主ノ
出行ヲ候フ、奴驂乗ス、叱レ、車ヨリ下
シ、之ヲ格殺ス、主、入テ訴ス、上大ニ怒
ル、宣ヲ召ヒ、之ヲ〔搦〕殺セント欲ス、宣
カ曰ク、奴、人ヲ殺スヲ〔緘〕セハ、何ヲ以
テ天下ヲ治ン、臣、撫ヲ須ヒス、請フ自
殺セント、即チ頭ヲ以テ〔搦〕叩ク、血
ヲ流メ、面ニ被ル、上、小黄門ヲノ之ヲ
持セシメ、頭ヲ叩テ主ニ謝セシム、宣

董宣強項ノ圖



兩手地ニ據テ、終ニ肯セス、上勅ス、強
項令出ヨト、錢三十萬ヲ賜フ、當時ノ
州牧、郡守、縣令、皆ナ良吏ナリ、郭伋、潁
川ニ守タリ、帝城ニ近シ、上、之ヲ勞メ
曰ク、河、九里ヲ潤ス、京師福ヲ蒙ルト、
杜詩、南陽ニ守タリ、郡人ノ力為メニ
語シテ曰ク、前ニ召父アリ、後ニ杜母
アリト、〔召〕父杜母、〔召〕父ハ、宣帝ノ時ノ
父ナリ、〔召〕子ニ信臣ナリ、杜母ハ、即チ杜詩
ノ母ト為ルニ足ヲ謂フ、張堪、漁陽ニ
守タリ、人ノ力為ニ語シテ曰ク、桑無
附枝、麥穂兩岐、張堪為政、樂不可支ト、

蒼頭

十八史略言解卷四

東漢光武帝 六一

〔處士〕士ノ道藝
アリテ、朝ニ官
セズ、家ニ處
ル者ヲ謂フナ
リ
〔謁〕セス、俯伏ノ
拜謁セス
〔賓〕服ナリ

劉昆、江陵ニ令ト為ル〔江陵〕縣、江
陵ニ屬ス、火
リ、頭ヲ叩テ、之ニ向ヘハ、風ヲ反シ、火
ヲ滅ス、後ニ弘農ニ守タリ〔弘農〕郡、河
内ニ屬ス、
今、州、虎、北ノ河ヲ渡ル、上問フ、何ノ德
政ヲ行テカ、是ニ至ルト昆カ曰ク、偶
然タルノミト、上曰ク、長者ノ言ナリ
ト命ノ之ヲ策ニ書セシム、尤モ高節
ヲ重シス、處士周黨ヲ徵ス、至ル、屈セ
ス、伏ノ謁セス、或人奏ノ之ヲ誡ル、上
ノ曰ク、古ヨリ、明王聖主ハ、必ス不賓
ノ士アリト帛ヲ賜テ、之ヲ罷ハ、處士

嚴光釣魚ノ圖



嚴光、上ト嘗テ同ク游學ス、上ノ位ニ
即クニ及テ光、乃チ姓名ヲ變メ、身ヲ
隱メ見ヘス、〔嚴光〕本姓ハ、莊、明帝ノ諱
ヲ避テ、改テ嚴ト曰フ
上、其賢ヲ思テ、物色メ之ヲ齊國ニ得
タリ、羊裘ヲ被テ、澤中ニ釣ル、徵サレ
テ至ル、亦屈セス、上、光ト同ク卧ス、足
ヲ以テ帝ノ腹ニ加フ、明日、太史奏ス、
客星、御座ヲ犯ス、甚急ナリト、上ノ曰
ク、朕、故人嚴子陵ト共ニ卧スノミト、
諫議大夫ニ拜スレ、肯テ受ケス、去
テ、富春山中ニ隱テ、終フ〔富春〕山、建

〔物色〕其ノ人物
顔色ヲ画像メ、
以テ之ヲ訪ヒ
求ルナリ

〔夏〕日西ニ向フ
ヲ、見ト曰フ〔夜〕
分〕夜半ナリ

徳府ニ漢世清節ノ士多キ、此ヨリ始
マ、ル、天下未夕平カサルニ方テ、上、已
テニ文治ニ志アリ、首トメ大學ヲ起
メ、古典ヲ稽式シ、禮樂ヲ修明ス、晚歲
ニ明堂靈臺辟雍ヲ起ツ〔明堂〕政ヲ布
ルエヘン、時ニ觀遊メ、勞佚ヲ節ス、災
祥ヲ察シ、所ニ辟雍、辟、璧、通ス、雍ハ
澤ナリ、大學ハ、大射、行禮ノ處ナリ、四
面ニ水ノ環ル、璧ノ如キ、故ナリ、一和
ニ、辟ハ、明ナリ、雍ハ、和ナリ、天下ヲ和
ナリ、亦通ス、〔察〕然タル文物、述フ可
シ、毎旦朝ヲ視ル、日昃テ乃チ罷ム、數
公卿即將ヲ引テ、經理ヲ講論シ、夜分

ニ乃チ寐ヌ、皇太子間ニ乘メ、諫テ曰
ク、陛下禹湯ノ明アリテ、黃老養性ノ
道ヲ失フト上ノ曰ク、我レ自ラ此ヲ
樂ム、疲ト為サルナリト、在位三十
三年、身太平ヲ致ス、改元スル者、二ツ、
曰ク、建武、中元、壽六十二、太子立ツ、是
ヲ顯宗明皇帝ト為ス
〔孝明皇帝〕初ノ名ハ陽、母ハ陰氏、光武、微
タリシ時ニ、嘗テ曰ク、仕官ノハ當サ
ニ執金吾ト作ルヘシ、妻ヲ娶ラハ當
サニ陰麗華ヲ得ヘシト〔麗華〕后、後、竟

〔壑〕カナリ畔ナ
リ〔覈〕實ナリ

〔郡〕教ハ、教戒
ナリ、方ハ、比ナ
リ、言ハ、其ノ壑
田ノ數ヲ求メ
問テ、以テ相比
スルナリ

ニ之ヲ得テ、陽ヲ生ム、幼ニノ穎悟ノ
リ、光武、州郡ニ詔シ、壑田戸口ヲ檢覈
ス、諸郡各人ヲ遣シ、夏ヲ奏ス、陳留ノ
吏、曠ヲ見ルニ、上ニ書スアリ、之ヲ視
ルニ、云ク、潁川弘農ハ、問フ可シ、河南
南陽ハ、問フ可ラスト、光武吏ニ由テ
詰ル、祇言フ、街上ニ於テ、之ヲ得ルト、
光武怒ル、陽年十二、愷後ニアリ、曰ク、
吏郡教ヲ受ク、壑田ヲ以テ相方シト
欲スルノミ、河南ハ、帝城ナリ、近臣多
シ、南陽ハ、帝郷ナリ、近親多シ、田宅制

〔首服〕首ハ、陳
リ、自ラ其ノ匪
ス、所ヲ陳ノ其
罪ニ服ス、陽カ
言フ所ノ如ク
ナリ

ニ踰ユ、準ト為ス可ラスト、以テ吏ヲ
詰ル、首服ス、光武大ニ之ヲ奇トス、郭
皇后、廢セララル、陰貴人立テ后ト為ル
〔貴人〕位、皇后ニ亞ク、后、既ニ官闈ニ
正位シ、愈自ラ謙肅ナリ、好テ書ヲ讀
ミ、常ニ大練ヲ水ル、裾ヲ加ヘス、朝
望ニ諸姫主、朝謁ス、后ノ袍衣ノ疎、
ナリ、望ニ主、見テ、以テ為ク、此ノ縉、
テ視テ、乃チ笑フ、后曰ク、此ノ縉、
宜ク色ヲ用ユト、陽ヲ皇太子ト為ス
故ニ之ヲ用ユト、至テ、位ニ即ク、○永
莊ト改名ス、是ニ至テ、位ニ即ク、○永
平二年、辟雍ニ臨テ、養老ノ禮ヲ行フ、
李躬ヲ以テ三老ト為ス、桓榮ヲ五更
ト為ス、〔三老〕五更、三公、五更ハ、
大夫ナリ、又曰ク、三老ハ、老人

ナリ、○五雜組ノ宿、字音秀然、辰止宿ノ義、所ハ則チ音、亦ハ可ナリ

右臂ヲ斷ツ、西域ノ地、匈奴ト接ス、若シ漢ト通セバ、則チ匈奴ノ功ヲ失フ、其如キナリ

ヲ置ク、〔戊〕巴、校尉官、西域ヲ補、輝鎮安
ムル如シ、〔戊〕巴、主トシ、謂フ、其常ニ治
ル、〔戊〕巴、主トシ、謂フ、其常ニ治
日、〔戊〕巴、主トシ、謂フ、其常ニ治
リ、〔戊〕巴、主トシ、謂フ、其常ニ治
モ、〔戊〕巴、主トシ、謂フ、其常ニ治
ナ、〔戊〕巴、主トシ、謂フ、其常ニ治
方、〔戊〕巴、主トシ、謂フ、其常ニ治
帝、〔戊〕巴、主トシ、謂フ、其常ニ治
王、〔戊〕巴、主トシ、謂フ、其常ニ治
至、〔戊〕巴、主トシ、謂フ、其常ニ治
故、〔戊〕巴、主トシ、謂フ、其常ニ治
シ、〔戊〕巴、主トシ、謂フ、其常ニ治
ト、〔戊〕巴、主トシ、謂フ、其常ニ治
尉ト為ス、涼州ニ屯ス、固假司馬班超

頓忽ナリ、鄯善チ超ヲ遇スル、忽

ヲメ西域ニ使セシム、〔假司馬〕正司馬
假ト超、鄯善ニ至ル、其王之ヲ禮スル、
甚備レリ、匈奴ノ使来ル、頓ニ踈解ナ
リ、超、吏士三十六人ヲ會メ、曰ク、虎穴
ニ入ラスンハ、虎子ヲ得スト、虜營ニ
奔ル、其使及ヒ從士三十餘級ヲ斬ル、
鄯善ノ一國震ヒ怖ル、超、告ルニ威德
ヲ以テシ、復虜ト通スルナカラシム、
超、復寘ニ使ス、〔寘〕國、西域其王モ亦虜
ノ使ヲ斬テ、以テ降ス、是ニ於テ、諸國
皆ナ子ヲメ、入侍セシム、西域復通ス

帝藥崧ヲ撞シ圖



招キ、誘ハサラシ己テニノ、漢、北匈奴
 △ルナノサラシ己テニノ、漢、北匈奴
 フ伐ツ、北匈奴モ亦邊ニ冠ス、是ニ至
 テ、恭ヲ金蒲城ニ攻△〔金蒲城、西域
 藥ヲ以テ、矢ニ傳テ、匈奴ニ語テ曰ク、
 漢家ノ箭ハ、神ナリ、中ル者ハ異アリ
 ト、虜、劊ヲ視レバ、皆ナ沸ク、大ニ驚ク、
 恭、暴風雨ニ乗メ、之ヲ撃ツ、殺傷甚衆
 シ、匈奴震懾テ曰ク、漢ノ兵ハ、神ナリ、
 真ニ畏ル可キナリト、乃チ解キ去ル
 ○上崩ス、在位十八年、改元スル者、一
 ツ、曰ク、永平、壽四十八、上性、偏察ニ

偏性ノ挾キナ
 リ耳目云々耳
 目ハ、間偵ノ者
 フ謂フナリ、言
 ハ、上潜カニ耳
 目ノ上、陰ヲ遣リ、
 下ノ人ヲ私ノ知
 發シメ、人ヲ私ノ知
 ラシメ、ト曰フ故ニ
 隱々ト曰フ故ニ
 穆々深遠ノ貌
 容儀ノ深遠ノ貌
 リ皇々敬畏ノ貌
 貌自ラ脩正ス

好テ耳目ヲ以テ、隱發シ明ト為ス、公
 卿大臣數誡毀セラシ、近臣尚書以下
 提曳セラシ、至ル、嘗テ郎藥崧ヲ
 怒ル、杖ヲ以テ之ヲ撞ク〔郎官ノ名崧
 走テ床下ニ入ル、上怒ル、甚シ、疾ク言
 テ曰ク、郎出テヨ、郎出テヨト、崧カ曰
 ク、天子ハ穆々、諸侯ハ皇々、未タ人君
 ノ自ラ起テ、郎ヲ撞ヲ聞カスト、乃チ
 之ヲ赦ス、上、建武ノ制度ヲ遵奉メ、更
 變スル所ナシ、后妃ノ家、侯ニ封セラ
 レ、政ニ預テ得ス、詔陶公主〔詔陶、漢

〔百里〕縣ナリ

〔公主〕光武ノ女子ノ為メニ郎ヲ求ム、上ノ曰ク、郎官ハ、上列宿ニ應シ、出テ百里ニ宰タリ、苟モ其人ニ非スンハ、民其ノ殃ヲ受クト、許サス、當時ノ吏、其人ヲ得テ、民其業ヲ樂ム、遠近畏服ス、戸口滋殖ス、太子立ツ、是ヲ肅宗孝章皇帝ト為ス

沖冠嶺著十八史略譯解卷之四終

